

# バット・ダムバーン（カンボジア）の人々による 関東大震災義捐金募金について

北川 香子

## はじめに

ブノム・ベンの国立公文書館（ANC）所蔵文書ファイルRSC9632、『日本における大災害の被害者のための公開募金：バット・ダムバーン理事官府との通信』には、1923年9月下旬から11月中旬までの、140点ほどの文書が収められている。その大部分は、バット・ダムバーンBattambang理事官府R sidence管轄下にあった諸地域からの募金者リストである。言語はタイプ打ちあるいは手書きのフランス語が大半で、若干手書きのカンボジア語が混じっている。リストの署名欄に漢字で名前が記されているものもある。経緯を見ると、カンボジア王国全体で一様に募金活動が展開されたようであるが、現時点ではバット・ダムバーンに関する文書ファイルRSC9632以外の史料は見つかっていない。

関東大震災に際しては、国内外から義捐金が寄せられた。各国からの義捐金額は、1924年12月末日時点で、以下のようになっている。

国名	外国義捐金			合計
	金額			
	外国人	在留邦人	内外人	
米国及其属領	12,650,173円270	2,781,601円240	17,381円520	15,449,156円130
	12,527,532円470	2,761,162円020		15,306,076円010
玖馬〔キューバ〕	10,402円150			10,402円150
墨西哥〔メキシコ〕	57,811円660	7,297円500	72,816円990	137,926円150
巴奈馬〔パナマ〕	1,528円660	2,040円820		3,569円480
秘露〔ペルー〕	9,910円160	146,847円350	29,757円470	186,514円980
智利〔チリ〕	9,230円760		8,647円080	17,877円840
亜爾然丁〔アルゼンチン〕	553円000		43,331円080	43,884円080
伯刺西爾〔ブラジル〕	1円750	2,412円420	11,157円740	13,571円910
中華民國	1,347,898円960	236,187円070	72,923円830	1,657,009円860
	1,065,372円310	207,614円830	45,869円300	1,318,856円440
暹羅〔シヤム〕	61,648円270			61,648円270

英国及其属領	3,619,085円530	490,245円640	1,527円730	4,110,858円900
	3,564,585円530			4,056,358円900
諾威〔ノルウェー〕	1,169円540			1,169円540
独逸		2,752円450	13,068円530	15,820円980
蘭国及其属領	278,903円334	5,424円440	25,408円170	355,735円944
白耳義〔ベルギー〕	141,466円300	750円000	2,048円680	144,264円980
佛国及其属領	306,466円378	8,539円770	5,786円640	320,792円788
	72,393円968			86,720円378
伊太利	41,426円280			41,426円280
瑞西〔スイス〕			89,231円548	89,231円548
露西亜	1,005円000	154円200	28,961円100	30,120円300
	5円000			29,120円300
ラトヴィア国	4,395円040			4,395円040
土耳其〔トルコ〕	193円720			193円720
波蘭〔ポーランド〕	1,268円950			1,268円950
奥国〔オーストリア〕	186円130			186円130
瑞典〔スウェーデン〕	40,624円560	282円020		40,906円580
チェッコ国	29,100円000			29,100円000
暮利比亞〔ボリビア〕		12,345円340		12,345円340
ウルガイ国	7,544円900			7,544円900
ルーマニア国	74円650			74円650
諸国混合			1,050円740	1,050円740
葡萄牙国（澳門） 〔ポルトガル（マカオ）〕	1,174円630			1,174円630
合計	18,623,943円682	3,742,880円260	423,098円848	22,798,222円790
	17,928,504円722	3,693,868円800	396,044円318	22,018,416円840

〔義捐金収支状況調 大正十三年十二月末日現在〕より作成

カンボジアからの義捐金は、「佛国及其属領」に含まれて、存在自体が見えなくなっていると考えられる。ベトナム、ラオスからの義捐金も同様であろうし、「米国及其属領」、「英国及其属領」、「蘭国及其属領」にも、東南アジアの人々からの義捐金が含まれている可能性があることになる。フィリピンでは「百万ペソ募金運動」が1か月間実施され、インドでも総督から義捐金の呼びかけがあったという情報もある〔井上2023:278〕。

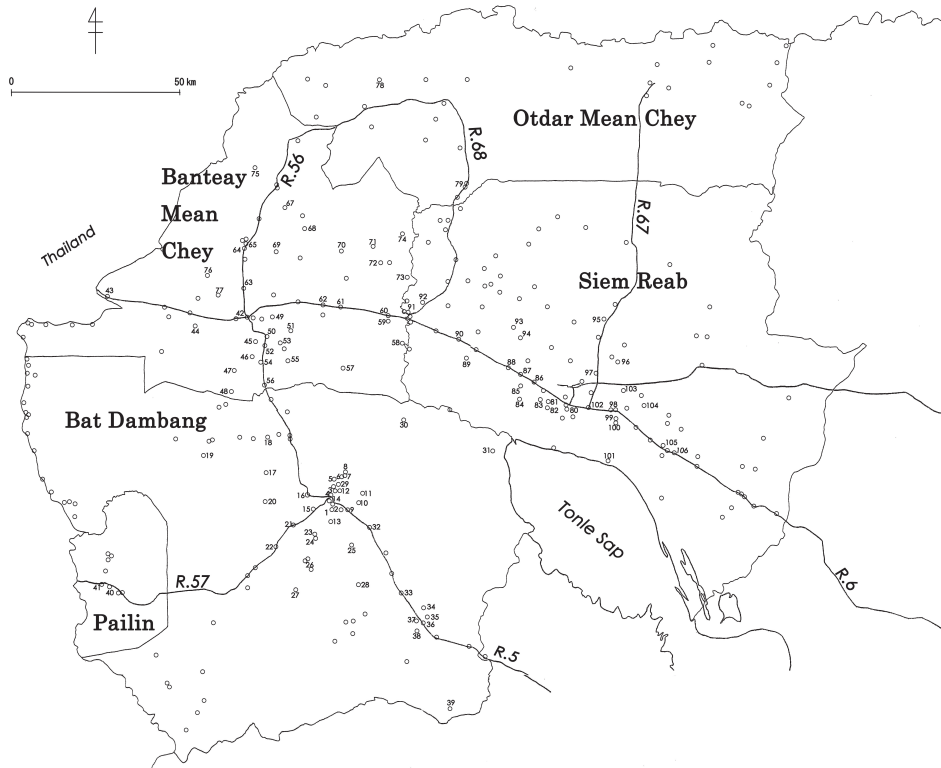
「災害外交」という視点から、20世紀初頭の日本の経験を考察した土田によると、日露戦争前後には、1902（明治35）年5月のフランス領マルティニーク島（カリブ海・西インド諸島）のプレー山噴火、1905年秋から翌年にかけての日本の東北地方の大凶作、1906年4月のサンフランシスコ地震、1908年12月のイタリアのメッシーナ地震、1910年初めのパリ大洪水、そして同年夏の日本の関東大水害と、世界各地において立て続けに大規模災害が発生し、また中国ではたびたび飢饉が発生し、国際的な支援活動が行われるなかで、日本も災害外交の経験を積んでいった〔土田2023a:234〕。土田の研究は日本

の災害外交史の構築をめざすものであり、東アジア以外の地域は積極的な考察の対象外となっているが、「欧米ではない地域」が国際的な災害外交に参入していった過程を明らかにしたものとして、グローバルな歴史を考えるうえでは大きな意味がある。東南アジアに関しても、1902年のプレー山噴火で、「文明国と称えられる国の元首」たちの一員として、日本の皇室よりも先に、東南アジア唯一の独立国であったシャムの国王が2千5百フランの救恤金を送っていたこと<sup>1</sup> [土田2023a:236]、1905年秋の東北地方の大凶作でも、シャム国王から約4,600ピクル（1ピクル＝約60キロ）の米が贈られたこと [土田2016:112] が提示されている。東南アジアではないが、1913年の北海道・東北の凶作と1914年の桜島（鹿児島）の大噴火に際しては、アメリカ合衆国（約5万円）、中国（約2万4千円）、イギリス（約2万2千円）に次いで、アフガニスタン皇帝から約1万円が寄せられた [土田2023b:94-95]。上記の表にある通り、関東大震災でもシャムから義捐金が贈られており、その額は中南米諸国より多く、ヨーロッパの国々と比較しても小さくはない。また関東大震災において、アメリカの支配下にあったフィリピン<sup>2</sup>は、援助の基地として大きな役割を果たした [波多野1999:145,151,159-162,169]。仏領インドシナからも、9月23日に救護団が到着している [波多野1999:178]。宗主国よりも日本に近い東南アジアの植民地は、人員・物資・情報の移動の前線基地として、関東大震災における救援活動に大きく貢献したと考えられる。

しかしながら東南アジア諸地域の国際的な災害外交への参加については、まだほとんど研究されていない。したがってRSC9632はその存在自体が、関東大震災をめぐる災害外交にカンボジアの村落居住者もまきこまれていたことを示している点で、紹介される価値があると考えられる。ただし収納されている文書の大部分が募金者リストであるため、RSC9632の分析から判明するのは、どのくらいの額を募金可能な人がどこに住んでいて、その人々が行政当局の目から見てどのように類別されていたのかという、当時の地域社会の様相が主となる。国際社会や日本、震災そのものに関する現地の人々の認識を示唆するような情報はほとんど得られない。それでも本稿では最初に、募金を呼びかける文書や募金者リストに付された表題というわずかな情報源から、関東大震災という出来事がどのように地域社会に伝わっていたのかを探ってみることにする。その次に募金者リスト本体を、募金者の居住地と生業、官吏・官人の場合は階級によって整理し、バット・ダムバーンの地域住民がそれぞれの立場から、どのように仏領インドシナの災害外交の一端を担ったのかを検討していく。

<sup>1</sup> 当時の『読売新聞』のコラムなどでは、「貧乏国」である日本が他国のために義捐金を送るのは「不釣合」であるという意見が示されたりもした [土田2023a:237-238]。

<sup>2</sup> フィリピン人看護婦が少なくとも38名来日している [波多野1999:169]。



地図1：1998年センサスで確認できたクム名

ព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា ផែនទីភូមិបាល (2000) をもとに作成。地名は*General Population Census of Cambodia 1998 Village Gazetteer* (National Institute of Statistics, Ministry of Planning, 1999) による。

R.5, 6, 56, 57, 67, 68は国道。

- 1: Voat Kor, 2: Ou Dambang, 3: Sla Kaet, 4: Chamkar Samraong, 5: Peam Aek, 6: Preaek Khpob, 7: Preaek Luong, 8: Preaek Norint, 9: Anlong Vil, 10: Roka, 11: Ta Pon, 12: Norea, 13: Voat Ta Muem, 14: Rotanak, 15: Ou Mal, 16: Chrey (S. Bat Dambang), 17: Anlong Run, 18: Bansay Traeng, 19: Kdol, 20: Ta Kream, 21: Phnum Sampov, 22: Snoeng, 23: Chheu Teal, 24: Bay Damram, 25: Reang Kesei, 26: Kantueu, 27: Chaeng Mean Chey, 28: Thipakdei, 29: Samraong Knong, 30: Prey Chas, 31: Kaoh Chiveang, 32: Kampong Preah, 33: Kakaoh, 34: Ta Loas, 35: Chrey (S. Moug Ruessei), 36: Kear, 37: Moug Ruessei, 38: Robas Mongkol, 39: Prey Tralach, 40: Pailin, 41: Ba Yakha, 42: Kampong Svay, 43: Paoy Paet, 44: Samraong, 45: Bat Trang, 46: Rohat Tuek, 47: Chamnaom, 48: Soea, 49: Phniet, 50: Ruessei Kraok, 51: Koy Maeng, 52: Banteay Neang, 53: Ta Lam, 54: Ou Prasat, 55: Kouk Ballangk, 56: Phnum Touch, 57: Sambuur (S. Mongkol Borei), 58: Prasat, 59: Phnum Lieb, 60: Tuek Chour, 61: Rohal, 62: Preah Netr Preah, 63: Mkak, 64: Ta Baen, 65: Svay Chek, 66: Treas, 67: Phum Thmei, 68: Phkoam, 69: Ta Phou, 70: Ponley, 71: Paoy Char, 72: Srah Chik, 73: Spean Sraeng, 74: Nam Tau, 75: Kouk Romiet, 76: Soengh, 77: Changha, 78: Kouk Khpos, 79: Chong Kal, 80: Sala Kamraeuk, 81: Srangae, 82: Sambuur (S. Siem Reab), 83: Krabei Riel, 84: Kaev Poar, 85: Samraong Yea, 86: Khnat, 87: Puok, 88: Lvea, 89: Mukh Paen, 90: Prey Chruk, 91: Kralanh, 92: Ta An, 93: Trei Nhor, 94: Reul, 95: Banteay Srey, 96: Run Ta Aek, 97: Preah Dak, 98: Bakong, 99: Roluos, 100: Mean Chey, 101: Kampong Phluk, 102: Kandaek, 103: Ballangk, 104: Chan Sar, 105: Soutr Nikom, 106: Dam Daek

## 1. カンボジアにおける募金開始と災害の伝えられ方

RSC9632からカンボジアでの募金開始の経緯を見ると、以下のようになる。1923年9月24日付の公式電報790番で、理事長官Résident Supérieurからカンボジアの全理事官Résidentおよびシエム・リエブとパイリンの代理官Délégué宛に、インドシナ総督Gouverneur Généralが「日本の大惨事catastropheの被害者」のための募金開始を決定した旨が伝達された。募金活動の詳細は、プノム・ベン市の市長Résident-Maire、理事官、管区circonscriptionの長、全国および地域の公共機関の長に宛てた、同日付の理事長官通達135番（フランス語印刷）に記されている。その冒頭には、総督が「日本国民の救援に関する全世界の自発的な運動」にインドシナも参加させたいと望んでいること、そして「横浜と東京の町を破壊した地震と火災」の被災者救援のために、一般会計予算から10万ピアストル(\$)の支出を決定したことが記されている。続けて、カンボジアの現地会計予算からも可能な限り拠出する予定であるが、植民地の長の期待に応えるには、インドシナの貢献を公的な予算からの支出に限るのではなく、各自が可及的速やかに、「フランスの呼びかけに応え、極東の平和を維持するための協力を惜しまなかった友邦に対する責務たる救援」を提供することが重要であるとする。その上で、カンボジアからの貢献として、フランス人と現地人全員に、「日本の地震の被害者のための公開募金」を開始することを呼びかけ、募金者リストはプノム・ベンの市長官邸Résidence-Mairie、商工会議所、および各理事官府あるいは行政代理官府の中心地で公開される旨が記されている。なおRSC9632に収められた通達紙面の上部には、9月29日付で、バット・ダムバーン理事官府の受領印が押されている。

以上を見ると、インドシナ総督府からカンボジア理事長官府、さらに各地の理事官府までの通達には、震災とそれともなう火災によって、横浜と東京に壊滅的な被害が出たという情報が明記されている。しかしバット・ダムバーン理事官府管轄下の各地域から送られてきた書類には、震災や火災の記載はない。フランス語の募金者リストには、「日本の大災害の被害者のため」、「日本のため」、「日本の被災者のため」とのみ記されている。一方カンボジア語のリストでは、「水に沈んで大勢が死亡した日本への義捐金を募金した者 អ្នក ចូល ប្រាក់ ជួយ សម្រាប់ ប្រទេស ជប៉ុន ដែល ទឹក លិច ស្លាប់ ជា ច្រើនណាស់」、 「日本への義捐金を募金した者 អ្នក ចូល ប្រាក់ ជួយ សម្រាប់ ប្រទេស ជប៉ុន」、 「日本義捐金 ប្រាក់ ជួយ ឧបទ្វីប ជប៉ុន」などと記され、「地震 រញ្ជួយ ដី」という言葉は現れない。当時は映画が新たなメディアとして注目を浴びはじめており、日本では震災直後に記録映画が制作され、内地のみならず朝鮮でも上映されていた〔西村2019:43〕。上海の申江大劇院でも、「日本大震災」というドキュメンタリー映画が3本連続上映され、日本国民への救済が呼びかけられた〔王2018:140〕。1923年9月1日から3日間にわたって、東京の上野駅周辺や静岡・伊豆半島など計27か所で撮影された、音声なしのモノクロ映画『東京関東地方大震災惨害実況』には、建物の倒壊や火災によって東京一帯が焼け野原となっている状況や、路頭に迷いながら避難する人びとの様子、

震災で犠牲になった人びとの死体が桟橋に流れ着いた場面も映し出されていた〔西村2019:43-44〕。沿岸地域では津波の被害もあった〔加納 他2021:172-173〕。具体的な被害状況を示唆する「水に沈んで大勢が死亡した」という句は、どこかでこのような映像を見た人々が得た印象かもしれないし、カンボジアでは地震はほとんど発生しないが、洪水は極めて身近な現象であるため、災害すなわち洪水被害であると理解したのかもしれない。

## II. バット・ダムバーン理事官府管轄下各地域における募金状況

### 1. バット・ダムバーン

#### (1) 募金者リストの概要

カンKhand（地区）・バット・ダムバーンの①ヨーロッパ人入植者募金者リスト（日付なし）には、フランス語手書き2種とタイプ打ち1点の計3点と、名前がタイプ打ちされた横にサインが記された欄外署名用紙がある。リスト3点には若干の異同がある。手書きリストの1つには20人分の記載がある（95\$+10\$）が、筆跡は様々で、備考欄に「支払済payé」という文言が書かれている。もう1つのリストは同じ筆跡で理事官を除く18人分の記載があり（75\$）、その横に様々な筆跡で「支払済」と書かれている。タイプ打ちリストには21人分が記載されている（106\$）。②保護国現地人官吏募金者リスト（日付なし）には、フランス語手書き1点とタイプ打ち2種の計3点と、職場名がタイプ打ちされた欄にサインが記された欄外署名用紙がある。リスト3点の名前と金額は一致する（38人/45\$）。手書きリストの筆跡は様々で、備考欄に「支払済」という文言が書かれている。バット・ダムバーンのヨーロッパ人入植者宛てと保護国現地人官吏宛てには、それぞれ10月1日付で、「理事長官殿の喫緊の呼びかけに応えようと希望する者は、添付のリストに登録して欲しい。このリストは保護国の長に送付する予定である」という通達（フランス語、タイプ打ち）が理事官から送られており、①②のリストはこの通達に応えたものと思われる。

③カンボジア人行政官募金者リスト（日付なし）は、フランス語タイプ打ちと手書きの2点がある。手書きリストには52人、タイプ打ちリストには50人の名前と募金額が記されており、両者に重複する記載もある。

④アジア人募金者リスト（日付なし）は、フランス語タイプ打ちのみで、51人の名前が募金額順に配列されている（444\$）。

⑤連番で7件作成されている募金者リストは、1番（日付なし）に1～91人目（178\$）、2番（日付なし）に92～184人目（67\$60）、3番（日付なし）に185～239人目（30\$30）、4番（日付なし）に240～268人目（38\$）、10月8日付5番に270～273人目（5\$40）、10月9日付番号なしに277～279人目（2\$）、10月12日付番号なしに277～285人目（4\$50）が記されている。最後の2つのリストで277～279という数字が重複しているが、情報自

体は別の募金者のもので重複してはいない。一方㉔カンボジア人行政官募金者リストと㉕には重複が見られる。なお「カン・バット・ダムバーンのカンボジア人官吏および名士からの募金額」として、バット・ダムバーン知事から理事官宛の10月8日付明細書4298番には、㉕1～4番の合計額に相当する、「20\$紙幣4枚=80\$、5\$紙幣15枚=75\$、1\$紙幣87枚=87\$、ピアストル（貨?）38枚=38\$、0\$20貨幣90枚=18\$、0\$10貨幣159枚=15\$90、計313\$90」、同日付明細書4305番には、㉕5番に相当する、「1\$紙幣5枚=5\$、0\$10貨幣4枚=0\$40、計5\$40」、9日付明細書4319番には、同日付㉕に相当する、「1\$紙幣2枚=2\$」、12日付明細書4370番には、やはり同日付㉕に相当する、「ピアストル硬貨1枚=1\$、0\$20貨幣8枚=1\$60、0\$10貨幣10枚（ママ）=1\$90、計4\$50」と記されている（以上フランス語手書き）。つまり㉕のリストと募金は4回に分けて、明細書付きで理事官のもとに送付されたことが分かる。

㉖10月15日付の寺院募金リストには、61寺院の名前と所在地（506\$70）、㉗10月22日付寺院募金リストには、7寺院の名前と所在地が書かれている（51\$37）。

## (2) 募金者の社会的地位および募金額

カン・バット・ダムバーンのヨーロッパ人入植者に関しては、㉘から21人分の名前と職位、募金額が判明する。居住地の情報はないが、おそらく理事官府周辺の地域であったと想定される。最高額は理事官の20\$、次に10\$が3人（民事局、公共事業、行政官）、8\$が1人（森林局）、5\$が5人（医師、蒸留所、銀行、査察官、役職なし）、3\$が3人（司令官、正規衛兵、役職なし）、2\$が6人（中尉、曹長、電気、公共事業、宣教師、役職なし）、1\$が2人（軍曹、憲兵）である。

㉙の現地人官吏のうち、フランス植民地行政府関連の勤務者は、38人の名前と募金額、勤務先が判明する。名前にはベトナム人名とカンボジア人名と思われるものが入り混じっている。金額は4\$が1人、2\$が4人、1\$が33人である。欄外署名用紙から判明する勤務先は、理事官府、財務局、郵便・電信局、土地台帳局、公共事業、警察署、農業、森林、理事官府学校、税関・専売、医療補助、獣医局である。ただし欄外署名用紙に付されているのはサインのみで、名前の判読は困難である。

㉚のアジア人募金者リストからは、51人の名前と募金額が判明する。居住地は記されていない。大半が中国人であるが、インド人が3人（20\$が1人、15\$が2人）含まれている。募金額は40\$が2人、38\$が1人、30\$が1人、20\$が3人、15\$が6人、13\$が1人、10\$が6人、6\$が3人、5\$が5人、3\$が1人、2\$が5人、1\$が17人であった。

地方知事Chaufaikheth<sup>3</sup>以下、オクニャー Oknhaなど前植民地期からの伝統的な高官の

<sup>3</sup> 当時のバット・ダムバーン知事カエウ・チア Keo Chea/Kêo Chéa の経歴は、傘谷 [2018:30-32] が詳細を提示している。それによると彼は1870年に宮廷医助手の子としてプノム・ベンに生まれ、パヴィー Auguste Pavie の探検隊にタイ語通訳として同行した経験を持つ。1921年よりバット・ダムバーン知事、1927年より司法大臣を務めた。

称号を冠するカンボジア王国の官人たちは、㉔のほか、㉕の7件連番リストに農民たちと一緒に記載されている。㉕からは287人分の名前と職業、居住地が判明する。オクニャー以下地方役場に勤めていたと考えられる官人たちは、1番リストの最初の方に記されている。オクニャー2人(行政および司法に関する事項の査察官とバット・ダムバーン知事)が20\$, ルオンLuong 1人(税の監督者)が5\$, オクニャー1人(裁判所長)が4\$, バット・ダムバーンの裁判官3人、バラットBalat(副官)・カン(地区)1人、バラット・スロックSrok(地方)1人が1\$, バット・ダムバーンの裁判所書記2人、バット・ダムバーンの裁判官1人、バット・ダムバーンのスミエンSmien(書記)8人が0\$50、スミエン1人が0\$40である。

1番リストの残りとして2番リスト以降には、村落の役人と農民の募金が記されている。以下の表はその情報を村落ごとに整理したものである。なお農民の名前にはすべて、長を意味するニエイNéayという語が付されている。

スヴァーイ・パオ <sup>4</sup> Svai Po	メー・クムMé Khum(行政村長)2人(名前が異なる)が2\$, チュムトップChumtup(助役)2人が1\$, 農民は2\$が1人、1\$70が1人、1\$が9人、0\$50が17人、0\$40が4人、0\$30が1人
ヴァット・コー <sup>5</sup> Vat Kor	メー・クムが5\$, チュムトップが1\$, 農民は2\$が1人、1\$が7人
クサチ・ポイ <sup>6</sup> Khsach Puoy	農民は1\$が1人、0\$50が5人
チャムカー・サムラオン <sup>7</sup> Chamkar Samraong	チュムトップが1\$, 農民は0\$50が5人
ヴァット・ロムドウオル <sup>8</sup> Vat Romduol	農民は2\$が1人
オー・マール <sup>9</sup> Omal	メー・クムが2\$, チュムトップ2人が1\$, 農民は3\$が1人、2\$が1人、1\$が3人、0\$50が1人
ダク・ササー <sup>10</sup> Dak Sasar	メー・クムが2\$, チュムトップ2人が1\$, 農民は1\$が1人
ヴァット・サンカエ <sup>11</sup> Vat Sangkê	農民は20\$が1人(Luong Norin Mol)、5\$が2人、2\$が1人、1\$が12人、0\$50が3人、0\$40が1人
ヴァット・ター・ムム <sup>12</sup> Vat Tamim	メー・クムが3\$, 農民は2\$が1人、1\$が10人、0\$50が1人
スラー・クラム <sup>13</sup> Slâ Kram	チュムトップが0\$50、農民は1\$が1人、0\$50が3人
ター・コク <sup>14</sup> Takok	メー・クムが3\$, 農民は2\$が1人、1\$が2人

<sup>4</sup> Svay Pao, 1998年センサスによると(以下同)、カエト・バット・ダムバーンBat Dambangのなかのスロック[National Institute of Statistics 1999:19]

<sup>5</sup> Voat Kor, スロック・スヴァーイ・パオ(U)のなかのクム[20]。

<sup>6</sup> Khsach Pouy, クム・ヴァット・コーのなかのプーム[20]。

<sup>7</sup> Chamkar Samraong, スロック・スヴァーイ・パオのなかのクム[20]。

<sup>8</sup> Voat Rumduol, クム・チャムカー・サムラオンのなかのプーム[20]。

<sup>9</sup> Ou Mal, スロック・スヴァーイ・パオのなかのクム[20]。

<sup>10</sup> Dak Sasr, クム・オー・マールのなかのプーム[20]。

<sup>11</sup> Sangkae, カエト・バット・ダムバーンのなかのスロック[27]。

<sup>12</sup> Voat Ta Muem, スロック・サンカエのなかのクム[28]。

<sup>13</sup> Sla Kram, クム・ヴァット・ター・ムムのなかのプーム[28]。

<sup>14</sup> Ta Kok, クム・ノリエのなかのプーム[27]。



バット・ダムバーン（カンボジア）の人々による関東大震災義捐金募金について

オー・ダムバーン <sup>15</sup> O Dambang	メー・クムが5\$, チュムトップは2\$が1人、1\$が1人、農民は1\$が2人、0\$50が10人
コムボン・プレア <sup>16</sup> Kg préas	メー・クムが0\$50
アンロン・ヴル <sup>17</sup> Anlong Vil	メー・クムが3\$
チレイ <sup>18</sup> Chrey	チュムトップが2\$
カ・コー <sup>19</sup> (?)Kokar	メー・クムが2\$
チュー・ティエル <sup>20</sup> Chhoeu Téal	メー・クムが5\$, 農民は5\$が1人、3\$が1人、1\$が2人
エンテアク・チト <sup>21</sup> Enthochit	メー・クムが1\$, チュムトップ2人が0\$50、農民は1\$が3人、0\$50が2人
バーイ・ダムラム <sup>22</sup> Bay damram	メー・クムが2\$, 農民は0\$50が9人、0\$20が1人
プレーク・ノリン <sup>23</sup> Prek Norin	メー・クムが5\$, 農民は1\$が11人、0\$50が1人
ター・チラエン <sup>24</sup> Tachreng	メー・クムが1\$, 農民は0\$50が3人、0\$30が4人、0\$20が3人
ピエム・アエク <sup>25</sup> Péam Ek	メー・クムが2\$, チュムトップが1\$, 農民は0\$50が11人、0\$40が1人、0\$30が4人
プレーク・クポブ <sup>26</sup> Prek Khpol	チュムトップ2人が1\$, 農民は1\$が12人、0\$50が16人、0\$30が1人
ヴァット・スヴァーイ Vat Svai	メー・クムが1\$
プレーク・ルオン <sup>27</sup> Prek Luong	メー・クムが2\$, チュムトップが0\$50、農民は0\$40が2人、0\$30が1人、0\$20が6人
ドン・ティエウ <sup>28</sup> Dontéao	チュムトップが1\$, 農民は1\$が1人、0\$40が1人、0\$30が3人、0\$20が1人
クドル <sup>29</sup> Kdol	メー・クムが3\$, チュムトップが1\$, 農民は1\$が4人、0\$50が6人、0\$20が1人

<sup>15</sup> Ou Dambang Muoy, Ou Dambang Pir, スロク・サンカエのなかのクム [28]。

<sup>16</sup> Kampong Preah, スロク・サンカエのなかのクム [27]。

<sup>17</sup> Anlong Vil, スロク・サンカエのなかのクム [27]。

<sup>18</sup> Chrey, スロク・バット・ダムバーンのなかのクム [18]。

<sup>19</sup> Ka Kou, スロク・バット・ダムバーン、クム・チレイのなかのプーム [18]。

<sup>20</sup> Chheu Teal, スロク・バー・ナンBananのなかのクム [16]。

<sup>21</sup> Enteak Chit, クム・チュー・ティエルのなかのプーム [16]。

<sup>22</sup> Bay Damram, スロク・バー・ナンのなかのクム [16]。

<sup>23</sup> Preak Norint, スロク・アエク・プノムAek Phnumのなかのクム [22]。

<sup>24</sup> Preak Ta Chraeng, クム・プレーク・ノリンのなかのプーム [22]。

<sup>25</sup> Peam Aek, スロク・アエク・プノムのなかのクム [23]。

<sup>26</sup> Preak Khpob, スロク・アエク・プノムのなかのクム [23]。

<sup>27</sup> Preak Luong, スロク・アエク・プノムのなかのクム [23]。

<sup>28</sup> Doun Teav, クム・ピエム・アエクのなかのプーム [23]。

<sup>29</sup> Kdol, スロク・バーヴェールBavelのなかのクム [22]。

(3) 寺院における募金額

以下は㊦㊧のリストを村落ごとに整理したものである。

スヴァーイ・バオ Svai-Por, Svai-Po	Sampou寺院10\$, Komphêng寺院3\$70、ヴァット・リエブ <sup>30</sup> Vat Léap寺院13\$, ロムドゥオルRomduol寺院5\$80、スラー・カエト <sup>31</sup> Sla Kêt寺院5\$, Piphit寺院7\$20、ダムレイ・サー Damrey Sar寺院5\$62
ヴァット・コー	コー Kor寺院42\$32、Kândeng寺院5\$
クサチ・ポイ	クサチ・ポイKhsach Puoy寺院5\$, コムボン・セイマー Kompong Sêma <sup>32</sup> 寺院3\$
チャムカー・サムラオン	Pothivong寺院5\$50
ダク・ササー Dak Sasâr	Takréam寺院6\$, ブン・レアン <sup>33</sup> Beng Réang寺院10\$
Chanda-Sva	コーク・クムム <sup>34</sup> Kok Khmum寺院20\$30、キエン・カエス <sup>35</sup> Kiên Kès寺院5\$40、チュロイ・ムテス <sup>36</sup> Chroy Motés寺院6\$, スピエン <sup>37</sup> Spéan寺院5\$40
ヴァット・サンカエ	Pochha Ram寺院5\$, サンカエSangkê寺院11\$20、カンダール <sup>38</sup> Kândal寺院10\$08、ソピ <sup>39</sup> Sophi寺院10\$, Vat Véal寺院6\$, Vat Po 7\$04
ヴァット・ター・ムム	ター・ムムTamim寺院43\$13、コムボン・アムピル <sup>40</sup> (?) Kompong-Pil寺院5\$10、Khvêng寺院5\$
スラー・クラム	スラー・クラムSlâ Kram寺院5\$30
ター・コク	バラット <sup>41</sup> Balat寺院6\$30、ノリエ <sup>42</sup> Noréa寺院10\$05
オー・ダムバーン O-Dâmbâng	Cho-Dek寺院5\$, Chêng Réangsey寺院8\$37
コムボン・プレア Kompong préas	コムボン・プレアKompong préas寺院15\$10
アンロン・ヴル	アンロン・ヴルAnlong Vil寺院14\$, オー・ムニ <sup>43</sup> O Many寺院2\$50
ロカー <sup>44</sup> Rokar	ロカー Rokar寺院5\$

<sup>30</sup> Voat Lieb、クム・チャムカー・サムラオンのなかのプーム [20]。

<sup>31</sup> Sla Kaet、スロック・スヴァーイ・バオのなかのクム [20]。

<sup>32</sup> Kampong Seima、クム・ヴァット・コーのなかのプーム [20]。

<sup>33</sup> Boeng Reang、クム・オー・マールのなかのプーム [20]。

<sup>34</sup> Kouk Khmum、スロック・バット・ダムバーンのなかのクム [19]。

<sup>35</sup> Kien Kaes Muoy、Kien Kaes Pir、クム・コーク・クムムのなかのプーム [19]。

<sup>36</sup> Chroy Mtes、スロック・バット・ダムバーン、クム・ター・ムンTa Meunのなかのプーム [18]。

<sup>37</sup> Spean、スロック・バット・ダムバーン、クム・バンサーイ・トラエンBansay Traengのなかのプーム [19]。

<sup>38</sup> Voat Kandal、スロック・サンカエ、クム・レアン・ケーセイReang Keseiのなかのプーム [28]。

<sup>39</sup> Souphi、スロック・バット・ダムバーン、クム・アンロン・ルンAnlong Runのなかのプーム [18]。あるいはSouphi Muoy、Souphi Pir、スロック・スヴァーイ・バオ、クム・ロタナRotanakのなかのプーム [20]。

<sup>40</sup> Kampong Ampil、クム・ヴァット・ター・ムムのなかのプーム [28]。

<sup>41</sup> Balat、クム・ノリエのなかのプーム [27]。

<sup>42</sup> Norea、スロック・サンカエのなかのクム [27]。

<sup>43</sup> O Muni Muoy、O Muni Pir、クム・アンロン・ヴルのなかのプーム [27]。

<sup>44</sup> Roka、スロック・サンカエのなかのクム [27]。

バット・ダムバーン（カンボジア）の人々による関東大震災義捐金募金について

ター・ボン <sup>45</sup> Tapon	サムダチ <sup>46</sup> Samdach寺院2\$80、バー・サエト <sup>47</sup> Basêt寺院1\$56、ター・ボンTapon寺院3\$20、Rokar Kông寺院5\$、ター・ハエン <sup>48</sup> Tahên寺院1\$60
チレイ	カ・コー Ka Kor寺院20\$
チュー・ティエル	チュー・ティエルChhoeutéal寺院12\$
エンテアク・チト	バー・ナンBanân（クラオムKrom）寺院3\$40
バーイ・ダムラム	バーイ・ダムラムBay Damram寺院10/15 3\$、10/22 3\$50
ター・ンガエン <sup>49</sup> Tangên	ター・ンガエンTangên寺院4\$
スヌン <sup>50</sup> Sneng	スヌンSneng寺院6\$70
Svai-Pa	プノム・サムブ <sup>51</sup> Phnôm Sampou寺院6\$
コムボン・コル <sup>52</sup> Kompong Kol	コムボン・コルKompong Kol寺院7\$
カントウ <sup>53</sup> Kantú	バー・ナンBanân（ルーLoeu）寺院5\$
サムラオン・クノン <sup>54</sup> Samrong Knong	サムラオンSamrong寺院16\$52、Phnou寺院3\$30、Vat Kêo寺院8\$50、ブレイク・スナオ <sup>55</sup> Prêk Snor寺院3\$
ブレイク・ノリンPrêk Norin	Ek Reangsey寺院15\$
ター・チラエンTachrêng	スヴァーイ・チルム <sup>56</sup> Svay chrum寺院2\$、ブレイク・クローチ <sup>57</sup> Prek Krauch寺院9\$50
ピエム・アエク	アエク・プノムEk Phnôm寺院7\$05
ブレイク・クボブPrek Kbob	Kdaing Ngéa寺院6\$12
Vat Svai	Svai寺院5\$10
ブレイク・ルオン	ブレイク・ルオンPrek Luong寺院3\$50、スデイ <sup>58</sup> Sdey寺院11\$02
ドン・ティエウ	So Monéas寺院13\$31
クドル	クドルKdol寺院15\$
Beng Krâsal	Beng Krâsal寺院5\$11
Thvak	Thvak寺院5\$
Trêng	Trêng寺院6\$04

<sup>45</sup> Ta Pon、スロック・サンカエのなかのクム [27]。

<sup>46</sup> Samdach、クム・ター・ボンのなかのプーム [27]。

<sup>47</sup> Basaet、クム・ター・ボンのなかのプーム [27]。

<sup>48</sup> Ta Haen Muoy、Ta Haen Pir、スロック・サンカエ、クム・ロカー Rokaのなかのプーム [27]。

<sup>49</sup> Ta Ngaen、スロック・バー・ナン、クム・ター・クリエム Ta Kreamのなかのプーム [17]。

<sup>50</sup> Snoeng、スロック・バー・ナンのなかのクム [17]。

<sup>51</sup> Phnum Sampov、スロック・バー・ナンのなかのクム [17]。

<sup>52</sup> Kampong Kol、スロック・バー・ナン、クム・チャエン・ミエンチェイ Chaeng Mean Cheyのなかのプーム [17]。

<sup>53</sup> Kantueu Muoy、Kantueu Pir、スロック・バー・ナンのなかのクム [16]。

<sup>54</sup> Samraong Knong、スロック・アエク・プノムのなかのクム [23]。

<sup>55</sup> Preaek Snao、クム・ブレイク・クボブのなかのプーム [23]。

<sup>56</sup> Svay Chrum、クム・ブレイク・ノリンのなかのプーム [22]。

<sup>57</sup> Preaek Krouch、クム・ブレイク・ノリンのなかのプーム [22]。

<sup>58</sup> Sdei Leu、Sdei Kraom、クム・ブレイク・ルオンのなかのプーム [23]。

## 2. モンコル・ボレイ

### (1) 募金者リストの概要

モンコル・ボレイの①10月8日付カン・クムKhum（行政村）の役人および商人募金者リストは、手書きのカンボジア語にフランス語訳が添えられ、100人分の名前、民族、居住地、募金額が記載されている(100\$)。末尾には作成者が地区長であることが記され、サインが付され、官印が押されている。なお同日付モンコル・ボレイからバット・ダムバーン知事宛596番（カンボジア語にフランス語訳付）には、カン・クムの役人と商人の募金者リストを付して紙幣100リエル/ピアストルを送付する旨が記されている。そのほか②10月11日付バト・トランBât Trângとプレーク・サムラオンPrek Samrongの募金者リスト（11\$）、③10月27日付ルセイ・クラオクRosey Krokの募金者リスト（52\$50）がある。④フランス語タイプ打ちのカンボジア人80人のリスト（日付なし）および⑤フランス語タイプ打ちの中国人56人のリスト（日付なし）は、①②③と重複が見られる。

⑥10月11日付の寺院募金リストには、19寺院の名前と所在地が記されている(129\$32)。

### (2) 募金者の社会的地位および募金額

以下は①②③④⑤のリストを村落ごとに整理したものである。

ルセイ・クラオク <sup>59</sup> Russey Krok	メー・クムが1\$, チュムトップ2人が1\$, シーヴィー・モンコル Sivi-Mongkolという者が2\$, 広東幫congrégationの長が5\$, 広東人は5\$が1人、3\$が3人、1\$が5人、中国人は2\$が3人、1\$が4人、名前だけのカンボジア人3人が1\$, 商人は5\$が2人、4\$が2人、2\$が8人、1\$が13人、0\$50が1人
オー・ターマー <sup>60</sup> Or Tama	メー・クムが1\$, クロムが1\$
プレーク・ロプウ <sup>61</sup> Prêk Ropou	地区長が2\$, バラット・カンが2\$, スミエンが1\$, メー・クムが1\$, チュムトップが0\$40, クロムは1\$が1人、0\$60が1人、中国人は1\$が1人、名前だけのカンボジア人1人が1\$
ニエン・ケート <sup>62</sup> Neang Ket	メー・クムが1\$, チュムトップは1\$が1人、0\$20が1人、中国人は1\$が1人、名前だけのカンボジア人1人が0\$20
ロハト・トゥック <sup>63</sup> Rohat Tuek	メー・クムが1\$, チュムトップは1\$が1人、0\$60が1人、0\$50が2人
プレーク・サムラオン <sup>64</sup> Prêk Samrong	メー・クムが1\$, チュムトップは1\$が1人、0\$50が2人、0\$20が1人、農民は0\$50が2人
バト・トラン <sup>65</sup> Battrang/Bât Trâng	メー・クムが1\$, チュムトップ3人が1\$, 商人は2\$が1人、1\$が3人、0\$50が4人、農民は2\$が1人、1\$が1人

<sup>59</sup> Ruessei Kraok、カエト・バンティエイ・ミエン・チェイBanteay Mean Chey、スロック・モンコル・ボレイ Mongkol Boreiのなかのクム [3]。

<sup>60</sup> Ou Ta Ma、クム・ルセイ・クラオクのなかのプーム [3]。

<sup>61</sup> Praek Ropou、クム・ルセイ・クラオクのなかのプーム [3]。

<sup>62</sup> Neang Ket、クム・ルセイ・クラオクのなかのプーム [3]。

<sup>63</sup> Rohat Tuek、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [3]。

<sup>64</sup> Preaek Samraong、クム・ロハト・トゥックのなかのプーム [3]。

<sup>65</sup> Bat Trang、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [1]。

バット・ダムバーン（カンボジア）の人々による関東大震災義捐金募金について

バンティエイ・ニエン <sup>66</sup> Bantéay Neang	メー・クムが <sup>0</sup> \$90
トラーン <sup>67</sup> Trang	メー・クム・タイTay（ラオ人）が <sup>1</sup> \$、チュムトップ3人が <sup>0</sup> \$25、クロム・デイ Dy（ラオ人）が <sup>1</sup> \$、クロム・チュムヌムが <sup>0</sup> \$25
ター・ラム <sup>68</sup> Talam	メー・クムが <sup>2</sup> \$、チュムトップ・リー Ly（チャーム人）が <sup>1</sup> \$、ほかのチュムトップは <sup>1</sup> \$が <sup>1</sup> 人、 <sup>0</sup> \$30が <sup>1</sup> 人、 <sup>0</sup> \$25が <sup>1</sup> 人、クロム・チュムヌムが <sup>0</sup> \$30、クロムが <sup>0</sup> \$60、広東人は <sup>3</sup> \$が <sup>1</sup> 人、 <sup>2</sup> \$が <sup>2</sup> 人、カンボジア人 <sup>1</sup> 人が <sup>0</sup> \$50
チャム・ナオム <sup>69</sup> Choum Nam	メー・クムが <sup>1</sup> \$
ター・サル <sup>70</sup> Tasâl	メー・クムが <sup>1</sup> \$
コイ・マエン <sup>71</sup> Koy Mêng	メー・クムが <sup>1</sup> \$、チュムトップ・チトChit（ラオ人）が <sup>1</sup> \$、ほかのチュムトップ <sup>1</sup> 人が <sup>0</sup> \$50、クロム <sup>2</sup> 人が <sup>1</sup> \$
サムブオ <sup>72</sup> Sambuor	メー・クムが <sup>1</sup> \$
スアSoeur <sup>73</sup>	メー・クムが <sup>1</sup> \$、チュムトップが <sup>0</sup> \$50
プノム・トーチ <sup>74</sup> Phnom Tauch	チュムトップが <sup>0</sup> \$30
オー・プラサート <sup>75</sup> O Prasat	メー・クムが <sup>0</sup> \$20、チュムトップ <sup>4</sup> 人が <sup>0</sup> \$20
ルヴィエLovéa	メー・クムが <sup>1</sup> \$、チュムトップは <sup>1</sup> \$が <sup>1</sup> 人、 <sup>0</sup> \$50が <sup>2</sup> 人、クロムは <sup>1</sup> \$が <sup>1</sup> 人、 <sup>0</sup> \$50が <sup>1</sup> 人
コッ・ボン・サート Kas Pong Sat	メー・クムが <sup>1</sup> \$、チュムトップ <sup>2</sup> 人が <sup>0</sup> \$50、ユオン <sup>1</sup> 人が <sup>0</sup> \$30
アンキエバスAng Kea Bos	メー・クムが <sup>1</sup> \$00
サン・プラサート・リエチ Sang Prasat Réach	メー・クムが <sup>1</sup> \$、チュムトップ <sup>1</sup> 人が <sup>0</sup> \$50、クロム・チュムヌム <sup>1</sup> 人が <sup>0</sup> \$50

### (3) 寺院における募金額

以下は⑥のリストを村落ごとに整理したものである。

ルセイ・クラオク	ルセイ・クラオクRosey Krok寺院13\$60、ルオンLuong <sup>76</sup> 寺院5\$70
オー・ターマー	アンチャン <sup>77</sup> Anchanh寺院7\$50
ブレーク・ロプウ	Nivés寺院10\$80、Kás寺院4\$
ロハト・トゥック	Poy-Cha寺院6\$70、ロハト・トゥックRohat-Tuk寺院12\$
バト・トラン	アンロン・トンガン <sup>78</sup> Anlong Thngan寺院6\$70、Beng Trao寺院8\$

<sup>66</sup> Banteay Neang、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [1]。

<sup>67</sup> Trang、クム・バンティエイ・ニエンのなかのプーム [1]。

<sup>68</sup> Ta Lam、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [4]。

<sup>69</sup> Chamnaom、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [1]。

<sup>70</sup> Ta Sal、スロック・モンコル・ボレイ、クム・コーク・バランKouk Ballangkのなかのプーム [2]。

<sup>71</sup> Koy Maeng、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [2]。

<sup>72</sup> Sambuor、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [3]。

<sup>73</sup> Soea、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [4]。

<sup>74</sup> Phnum Touch、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [2]。

<sup>75</sup> Ou Prasat、スロック・モンコル・ボレイのなかのクム [2]。

<sup>76</sup> Luong、クム・ルセイ・クラオクのなかのプーム [3]。

<sup>77</sup> Anhchanh、クム・ルセイ・クラオクのなかのプーム [3]。

<sup>78</sup> Anlong Thngan Kaeut、Anlong Thngan Lech、クム・バト・トランのなかのプーム [1]。

ボンロー <sup>79</sup> Pong-Ro	ボンロー Pong-Ro寺院5\$
ダン・ルン <sup>80</sup> Dang Roun	キレKhy-Lek寺院3\$
トラーン	トラーンTrang寺院1\$62
ター・ラム	ブレア・スラエ <sup>81</sup> Préas Srê寺院8\$40、Sras Veang寺院4\$
コイ・マエン	コイ・マエンKai-Meng寺院7\$50、Chanka Chék寺院5\$80
サムブオ	サムブオSambuor寺院10\$
オー・プラサート	Kâs-Két寺院3\$
コッ・ボン・サート	コッ・ボン・サートKâs Pông Sat寺院6\$

### 3. モーン・ルセイ

#### (1) 募金者リストの概要

モーン・ルセイの㉔10月6日付募金者リストは、手書きのカンボジア語にフランス語訳が添えられて、74人の名前、民族、居住地のクム・プームPhum（集落）と募金額が記されている（80\$）。冒頭に「バット・ダムバーン知事であるオクニャーの電信171番と177番に従って」作成された旨が記され、末尾には作成者としてオクニャー位の地区長の称号とサインが付され、官印が押されている。また10月7日付バット・ダムバーン知事宛64番（カンボジア語にフランス語訳付）には、「電信171番と177番に従って」募金者リストと80リエルを送る旨が記され、やはり地区長のサインと官印が付されている。なお㉕中国人30人分に関しては、別途、居住地抜きで、フランス語タイプ打ちのリスト（日付なし）が作成されている。

㉖10月12日付寺院募金リストには、6寺院の名前と所在地が書かれている（78\$40）。  
㉗10月19日付寺院募金リストには、18寺院の名前と村落名が記されている（162\$30）。

#### (2) 募金者の社会的地位および募金額

以下は㉔㉕のリストを村落ごとに整理したものである。

キエ <sup>82</sup> Kéa	地区長が3\$, スミエン・カンが1\$, プラントン (Planton、伝令)・カンが0\$50、チュムトップが1\$, 中国人は5\$が1人、2\$が3人、1\$が14人、カンボジア人は1\$が1人と夫妻6組
モーン <sup>83</sup> Moung	バラット・カンが2\$, メー・クムが1\$, 中国人は1\$が4人（女性2人）、0\$50が1人、カンボジア人は1\$が夫妻3組
チレイ <sup>84</sup> Chrey	メー・クムが1\$, チュムトップ2人が0\$50、クロム・チュムヌムが1\$, クロム2人が0\$50、中国人は1\$が5人、カンボジア人は0\$50が6人

<sup>79</sup> Pongro、クム・バンティエイ・ニエンのなかのプーム [1]。

<sup>80</sup> Dang Run Lech、Dang Run Kaeut、クム・バンティエイ・ニエンのなかのプーム [1]。

<sup>81</sup> Preah Srae、クム・ター・ラムのなかのプーム [4]。

<sup>82</sup> Kear、スロク・モーン・ルセイMoung Ruesseiのなかのクム [24]。

<sup>83</sup> Moung、スロク・モーン・ルセイ、クム・モーン・ルセイMoung Ruesseiのなかのプーム [24]。

<sup>84</sup> Chrey、スロク・モーン・ルセイのなかのクム [25]。

ドーントリー <sup>85</sup> Dontry	メー・クムが4\$
プーム・ブレーン/ クム・ドーントリー	アンナム人（ベトナム人）1人が1\$
ター・ロアス <sup>86</sup> Taleôs	メー・クムが1\$、チュムトップが1\$、中国人は0\$50が2人
トゥオル・プルム <sup>87</sup> Tuol Prom	メー・クムが1\$
チャク <sup>88</sup> Chak	メー・クムが1\$
クオイ・チーク・デイ <sup>89</sup> Kuoy Chik dey	メー・クムが1\$
プーム・カアエク/ クム・ロバオット・モンコル <sup>90</sup> Robos Mokol	メー・クムが1\$
ロバオット・モンコル	チュムトップ2人が0\$50
サムラオン <sup>91</sup> Samrong	メー・クムが1\$
ロールオス <sup>92</sup> Roluos	メー・クムが1\$
キエスクララー Kéa Kralor	メー・クム2人が1\$
クラエンコンKhleing Kuong	メー・クムが1\$
トナムThnam	メー・クムが2\$

### (3) 寺院における募金額

以下は㉔㉕のリストを村落ごとに整理したものである。

キエKéar	Sorya寺院6\$
モーンMoung	Por寺院9\$40
ルセイ <sup>93</sup> Rosey	Vélovéan寺院23\$10
チレイChrey	Nikrothi Réam寺院19\$
ドーントリー Dantry	Amo Véan寺院20\$、Sovana Liké寺院6\$、Pounâsatharam寺院15\$、Borey Sakor寺院2\$
ター・ロアスTaléas	Sovan Phum寺院10\$、Kas Keo寺院15\$
トゥオル・プルムTuol Prom	Prom Soren寺院16\$
チャクChâk	Champey Monyrot寺院11\$
ロバオット・モンコル Robâs Mokol	Ek Sovan寺院1\$90、Botoum Kongkéa寺院2\$、Pothi Chum寺院1\$50
サムラオンSâmrong	Banteay Kérey寺院6\$
ロールオスRoluos	Solas Mongkol寺院11\$80

<sup>85</sup> Doun Tri、クム・チレイのなかのプーム [25]。

<sup>86</sup> Ta Loas、スロク・モーン・ルセイのなかのクム [25]。

<sup>87</sup> Tuol Prum Muoy、Tuol Prum Pir、スロク・モーン・ルセイ、クム・カコーツ Kakaohのなかのプーム [25]。

<sup>88</sup> Chak Touch、Chak Thum、クム・カコーツのなかのプーム [25]。

<sup>89</sup> Kuoy Chik Dei、クム・ロバオット・モンコルのなかのプーム [25]。

<sup>90</sup> Robas Mongkol、スロク・モーン・ルセイのなかのクム [25]。

<sup>91</sup> Samraong、スロク・モーン・ルセイ、クム・テバデイThipakdeiのなかのプーム [26]。

<sup>92</sup> Roluos、クム・モーン・ルセイのなかのプーム [24]。

<sup>93</sup> Ruessei Muoy、Ruessei Pir、クム・Moung Ruesseiのなかのプーム [24]。

キエスクララー Kéas Krâlar	Boran Mongkol寺院7\$60、Boran Nivés寺院10/12 7\$、10/19 10\$
クラエンコン Khleng Kong	Tep Sovàn寺院8\$
トナム Thnâm	Chàn Pratés寺院5\$
プレイ・トララーチ <sup>94</sup> Prey Tralach	Aranh Pratés寺院18\$40
Snor	Snor寺院9\$

#### 4. シソボン

##### (1) 募金者リストの概要

シソボンに関しては、所属するカン・シソボン Sisophon、カン・プノム・スロック Phnôm Srok、カン・スヴァーイ・チェーク Svaïchék のリストがある。カン・シソボンには④10月18日付募金者リストに291人分 (82\$80)、⑤10月30日付募金者リストに59人分 (52\$60)、⑥10月17日付寺院募金リストに4寺院の名前と所在地が記されている (38\$62)。カン・プノム・スロックは⑦1923年10月18日付募金者リストに72人分 (54\$50)、⑧10月18日付寺院募金リストに8寺院の名前と所在地が記されている (23\$)。カン・スヴァーイ・チェークは⑨10月18日付募金者リストに48人分 (31\$10)、⑩10月18日付寺院募金リストに10寺院の名前と所在地 (292\$10) が記されている。

その他に、シソボン憲兵隊ポスト長 Blanc のサインが付された一連の文書（フランス語手書き）がある。10月25日付の書類にモンコル・ボレイでの集金額16\$、シソボンとその周辺での集金額20\$、計36\$と記され、同日付バット・ダムバーン理事官宛45番にも、自身が36\$集金し、バット・ダムバーンに赴く際にその額を引き渡すと記されている。28日付バット・ダムバーン理事官宛46番には、ムカク Makak 村で集金した9\$40と先の36\$を合せて45\$40を送ることが記されている。さらに翌29日付バット・ダムバーン理事官宛47番には、彼の示唆でムカクのメー・クムが自身のクムを巡察して23\$を集めたのでそれを送ること、先のリストを変更して68\$40とすることが記されている。⑪10月28日付と29日付の文書にはそれぞれ募金者リストが添付されている。

##### (2) 募金者の社会的地位および募金額

⑫シソボン憲兵ポストからのリストでは、ポスト長の Blanc 以下5名が1\$ずつ、少額募金者を合せてシソボンで15\$、モンコル・ボレイで16\$、ムカクのメー・クムが1\$と記された下に、28日付ではムカクの募金者を合せて8\$40、計45\$40、29日付ではムカクの募金者を合せて31\$40、計68\$40と記されている。Blanc の部下4人のうち、3人の名は中国人ともカンボジア人とも見え、4人目は明らかにベトナム人名である。

<sup>94</sup> Prey Tralach、スロック・モーン・ルセイのなかのクム [26]。



## カン・シソボン

以下は㉔㉕のリストを村落ごとに整理したものである。

シソボン <sup>95</sup> Sisophon	地方知事Chaufaisrokと裁判長(?)Président、バラット・カン・パオイ・パエト <sup>96</sup> (?)Pot Petが2\$, バラット・スロックとバラット・カン、引退した裁判長(?)、クララー・バンチー Krâla banchi (知事を補佐する地方官人の1つ)、教員、看護師が1\$, スミエン4人が0\$50
Sangréan Méan	メー・クムが1\$, 農民は1\$が1人、0\$60が1人、0\$50が1人、0\$40が1人、0\$20が9人、0\$10が14人、商人は0\$50が2人
サムラオン <sup>97</sup> Samrông	メー・クムが1\$, 農民は1\$が1人、0\$50が6人、0\$30が2人、0\$20が45人、0\$10が64人、0\$05が1人
アンロン・スヴァーイ <sup>98</sup> Anlong Svai	商人は0\$50が1人
コムボン・スヴァーイ <sup>99</sup> Kompong Svai	10/18商人は2\$が1人、1\$が4人（うち女性1人）、0\$50が16人、0\$40が4人、0\$30が5人、0\$20が8人（うち女性1人）、0\$10が1人、農民は2\$が1人、1\$が2人、0\$50が6人、0\$40が1人、0\$30が1人 10/30商人は2\$が8人、1\$50が2人、1\$が24人、0\$70が1人、0\$60が1人、0\$50が7人、0\$40が3人、0\$30が1人、0\$20が9人、0\$10が1人
カムプリン <sup>100</sup> Kampring	農民は0\$50が2人
ムカク <sup>101</sup> Mokok	農民は0\$50が3人
チャンハー <sup>102</sup> Châng Ha	メー・クムが1\$, 農民は0\$50が3人、0\$30が1人、0\$20が3人、0\$14が1人、0\$12が3人、0\$10が49人、0\$05が5人、0\$04が1人、0\$03が2人
Banléa	商人は0\$40が1人
Seng	商人は1\$が1人

## カン・プノム・スロック

以下は㉖のリストを村落ごとに整理したものである。

プノム・スロック <sup>103</sup>	地区長が2\$, スミエン、伝令が1\$
スラッ・チーク <sup>104</sup> Sras-Chik	メー・クムが1\$, チュムトップ8人が0\$50、農民は1\$が5人、中国人は2\$が1人、1\$が4人、0\$50が1人
パオイ・スヌオル <sup>105</sup> Poy Snuol	メー・クムが1\$, チュムトップは1\$が1人、0\$50が3人、農民は1\$が1人、中国人は1\$が1人

<sup>95</sup> セレイ・サオポアン Serei Saophoan(U)、カエト・バンティエイ・ミエン・チェイのなかのスロック [10]。

<sup>96</sup> Paoy Paet、カエト・バンティエイ・ミエン・チェイ、スロック・オー・チルウ Ou Chrovのなかのクム [10]。

<sup>97</sup> Samraong、スロック・オー・チルウのなかのクム [9]。

<sup>98</sup> Anlong Svay、スロック・オー・チルウ、クム・スン Soenghのなかのプーム [9]。

<sup>99</sup> Kampong Svay、スロック・セレイ・サオポアンのなかのクム [10]。

<sup>100</sup> Kampring、クム・プニエトのなかのプーム [11]。

<sup>101</sup> Mkak、スロック・セレイ・サオポアンのなかのクム [10]。

<sup>102</sup> Changha、スロック・オー・チルウのなかのクム [8]。

<sup>103</sup> Phnum Srok、カエト・バンティエイ・ミエン・チェイのなかのスロック [4]。

<sup>104</sup> Srah Chik、スロック・プノム・スロックのなかのクム [5]。

<sup>105</sup> Paoy Snuol、クム・パオイ・チャーのなかのプーム [5]。

パオイ・チャー <sup>106</sup> Poy Char	メー・クムが1\$, チュムトップは1\$が1人、0\$50が3人、農民は1\$が1人、中国人は1\$が1人、0\$50が1人
トラペアン・トマー <sup>107</sup> Trápéang Thmâr	メー・クムが1\$, チュムトップ4人が0\$50、農民は1\$が1人
ナム・ターウ <sup>108</sup> Nam Tao	チュムトップは1\$が1人、0\$50が3人
ボンレイ <sup>109</sup> Ponley	メー・クムが1\$, チュムトップ4人が0\$50、農民は1\$が1人、0\$50が2人
スピエン・スラエン <sup>110</sup> Spéan-Srêng	メー・クムが1\$, チュムトップ2人が0\$50、中国人は1\$が1人、0\$50が1人、農民は1\$が2人
Thnong	メー・クムが1\$, チュムトップ3人が0\$50
Kok Thbêng	メー・クムが1\$, チュムトップ4人が0\$50

### カン・スヴァーイ・チェーク

⑤のリストによると、スヴァーイ・チェークの地区長が1\$40、Tuk Chumポストの長と引退したバラット、コーク・ロミエト<sup>111</sup>Kok Romietのポストの長、名前だけ記された1人が1\$50、10人が1\$, 1人が0\$80、2人が0\$70、スヴァーイ・チェークのスマエンと名前だけの19人が0\$50、チュムトップ2人、名前だけの3人が0\$40、女性2人と名前だけの3人が0\$20であった。

### (3) 寺院における募金額

#### カン・シソボン

以下は⑥のリストを村落ごとに整理したものである。

サムラオン	サムラオンSamrông寺院9\$20
コムボン・スヴァーイ	Chôm Sothéa Véas寺院18\$80
チャンハー	チャンハー Châng Ha寺院1\$32
プニエト <sup>112</sup> Phniét	プニエトPhniét寺院9\$30

#### カン・プノム・スロック

以下は⑦のリストを村落ごとに整理したものである。

スラッ・チーク	Chey Oudâm寺院3\$, Sovanakha寺院3\$
パオイ・スヌオル	Promany寺院2\$
トラペアン・トマー	Oudâm Réateya寺院4\$

<sup>106</sup> Paoy Char、スロック・プノム・スロックのなかのクム [5]。

<sup>107</sup> Trapeang Thma Tbound、Trapeang Thma Cheung、Trapeang Thma Kandal、クム・パオイ・チャーのなかのプーム [5]。

<sup>108</sup> Nam Tau、スロック・プノム・スロックのなかのクム [4]。

<sup>109</sup> Ponley、スロック・プノム・スロックのなかのクム [5]。

<sup>110</sup> Spean Sraeng、スロック・プノム・スロックのなかのクム [5]。

<sup>111</sup> Kouk Romiet、スロック・トマー・プークのなかのクム [11]。

<sup>112</sup> Phniét、スロック・セレイ・サオポアのなかのクム [11]。

ナム・ターウ	Kas Réangsey寺院4\$
ボンレイ	Po Vinéy寺院3\$
スピエン・スラエン	Mony Kemevéan寺院2\$
Thnâng	Vises Mony寺院2\$

### カン・スヴァーイ・チェーク

以下は㉔のリストを村落ごとに整理したものである。

スヴァーイ・チェーク <sup>113</sup> Svai Chék	スヴァーイ・チェークSvai Chék寺院28\$80
ター・バエン <sup>114</sup> Tabên	ター・バエンTa-Bên寺院18\$90
トリエス <sup>115</sup> Tréas	トリエスTréas寺院20\$70、チャエン <sup>116</sup> Chêng寺院8\$
ター・ポー <sup>117</sup> Tapho	ター・ポー Ta-Pho28\$10
アムビル <sup>118</sup> Ampil	アムビルAmpil寺院44\$10
トマー・プーク <sup>119</sup> Thmar Puok	トマー・プークThmar Puok寺院70\$70
トメイThmey	プーム・トメイ <sup>120</sup> Phum Thmey寺院34\$20
コーク・ロミエトKok Romiét	Kândol寺院14\$40
Phkéam	Phkéam寺院24\$20

## 5. トウック・チョー

### (1) 募金者リストの概要

トウック・チョーの㉔10月19日付募金者リストには66人分（50\$70）、㉕10月19日付寺院募金リストには3寺院の名前と所在地（11\$40）、㉖1923年10月25日付寺院募金リストには2寺院の名前と所在地（41\$50）、㉗10月29日付寺院募金リストには5寺院の名前と所在地（13\$71）が記されている。

### (2) 募金者の社会的地位および募金額

以下は㉔のリストを村落ごとに整理したものである。

カン・トウック・チョー <sup>121</sup> Tuk Chor	地区長が2\$, スミエンが1\$, 伝令が0\$50
--	-----------------------------

<sup>113</sup> Svay Chek、スロック・スヴァーイ・チェークSvay Chekのなかのクム [13]。

<sup>114</sup> Ta Baen、スロック・スヴァーイ・チェークのなかのクム [14]。

<sup>115</sup> Treas、スロック・スヴァーイ・チェークのなかのクム [14]。

<sup>116</sup> Chaeng、クム・トリエスのなかのプーム [14]。

<sup>117</sup> Ta Phou、スロック・スヴァーイ・チェークのなかのクム [14]。

<sup>118</sup> Ampil、スロック・スヴァーイ・チェーク、クム・プロアムPhkoamのなかのプーム [13]。

<sup>119</sup> Thma Puok、カエト・バンティエイ・ミエン・チェイのなかのスロック [11]。

<sup>120</sup> Phum Thmei、スロック・トマー・プークのなかのクム [12]。

<sup>121</sup> Tuek Chour、カエト・バンティエイ・ミエン・チェイ、スロック・プレア・ネート・プレアPreah Netr Preahのなかのクム [7]。

トメイ <sup>122</sup> Thmei	メー・クムが1\$, チュムトップが1\$, 農民は5\$が1人、2\$が1人、1\$が2人、0\$50が2人、商人は1\$が2人、0\$50が1人
Kompong Svai	農民は1\$が1人
プレア・ネート・プレア <sup>123</sup> Préas Net Préas	メー・クムが1\$, 商人は1\$が7人、0\$70が1人、0\$50が13人、0\$30が5人、0\$20が3人
プラサート <sup>124</sup> Prásat	メー・クムが1\$, 商人は2\$が1人、1\$が5人、0\$60が1人、0\$50が3人、0\$30が1人、0\$20が4人、0\$10が2人
ロハール <sup>125</sup> Rohal	メー・クムが1\$
プノム・リエブ <sup>126</sup> Phnôm Liép	商人は1\$が2人

### (3) 寺院における募金額

以下は③④⑤のリストを村落ごとに整理したものである。

トメイ Thmei	Pothi Méas寺院4\$10、Kok Key寺院3\$80
チャー・ルー <sup>127</sup> Char Loeu	Prásat寺院3 \$ 50
オウマル <sup>128</sup> Omal	Tanléap寺院15\$50
プレア・ネート・プレア	プレア・ネート・プレアPréas net Préas寺院26\$
ロハール	Poy-Svai寺院3\$31
プノム・リエブ	Sras Chhouk寺院2\$30、Thmâr Kor寺院2\$, Prásat Chay Dey寺院3\$40
カムバオ <sup>129</sup> Kombor	Kâs Kéo寺院2\$70

## 6. バック・プリエ

### (1) 募金者リストの概要

バック・プリエの④10月29日付募金者リストには、10人分（16\$）の記載がある。

なおカン・バット・ダムバーンの⑤⑥⑦⑧、モンコル・ボレイの③④⑤⑥⑦⑧、モーン・ルセイの③④⑤、シソポンの①②③④⑤⑥⑦⑧、トゥック・チョーの①②③④⑤とバック・プリエの④は、同じ様式、同じ筆跡のフランス語手書きで、末尾に作成者が（バット・ダムバーンの）地方知事Chaufai Khetと記され、サインが付されている<sup>130</sup>。

<sup>122</sup> Thmei、クム・トゥック・チョーのなかのプーム [8]。

<sup>123</sup> Preah Netr Preah、スロック・プレア・ネート・プレアのなかのクム [7]。

<sup>124</sup> Prusat、スロック・プレア・ネート・プレアのなかのクム [6]。

<sup>125</sup> Rohal、スロック・プレア・ネート・プレアのなかのクム [7]。

<sup>126</sup> Phnum Lieb、スロック・プレア・ネート・プレアのなかのクム [6]。

<sup>127</sup> Char Leu、クム・トゥック・チョーのなかのプーム [8]。

<sup>128</sup> Ovmal、クム・プラサートのなかのプーム [7]。

<sup>129</sup> Kambaor、クム・プノム・リエブのなかのプーム [6]。

<sup>130</sup> そのほかにバット・ダムバーンのカンボジア人募金者リスト（70人）に続けてバック・プリエの募金者（8人）を記した紙片、モンコル・ボレイの中国人募金者リスト（56人）を左側に、カンボジア人募金者リスト（82人）を右側に記し、続けてモーン・ルセイの募金者リスト（70人）を記した紙片があり、筆跡や形式から、バット・ダムバーンの③カンボジア人行政官募金者リストのうち手書きリスト（52人）と同時に作成されたものではないかと思われる。さらにカン・バット・ダムバーン、モンコル・ボレイ、モーン・ルセイ、シソボン、トゥック・チョーの寺院に関しては、寺院名と募金額のみが別途、フランス語タイプ打ちのリストにまとめられている。

## (2) 募金者の社会的地位および募金額

以下は④のリストを村落ごとに整理したものである。

カン・バック・プリエ <sup>131</sup> Bacpréa	地区長が5\$, スミエンが2\$, メー・クムが1\$
プレイ・チャス <sup>132</sup> Prey Chas	メー・クムが1\$
ピエム・セイマー <sup>133</sup> Péam Sêma	メー・クムが1\$
コッ・チーヴェアン <sup>134</sup> Kas Chevéang	メー・クムが1\$
アンナム人の長	2\$が1人、1\$が3人

## (3) 寺院における募金額

10月14日付、バック・プリエ地区長の書簡189（カンボジア語）には、古い官人 Montreiy Chasであるネアク・アチニャー・キムNeak Achña Kimが募金を持ってきたこと、その内訳が、寺の外の募金73\$50、ヴァット・バック・プリエVat Bak Prea 12\$、ヴァット・チュー・クマウVat Chhoe Khmau 12\$、ヴァット・プレイ・チャスVat Prey Chas 10\$の計107\$50であることが記されている。10月16日付バット・ダムバーン知事から理事官宛ての明細書4439番（フランス語手書き）には、上記の書簡1通と、個人の募金73\$50に続けて3寺院での募金額と合計額が記載されている。

## 7. シエム・リエブ

### (1) 募金者リストの概要

シエム・リエブに関しては、1923年10月30日付で、所属するカン・シエム・リエブ Siemreap、カン・ソートニコム<sup>135</sup>Sauthnikom、カン・プオクPuok、カン・クララン Kralanh、カン・チョンカールChongkalの5地区の募金者リストがフランス語タイプ打ちで、それをまとめた表がフランス語手書きで作成されている。④ヨーロッパ人官吏募金者リストと①アンナム人募金リストはシエム・リエブとクラランのみ、②現地人官吏募金者リストと③クムと寺院募金リスト、⑤アジア系外国人募金者リスト<sup>136</sup>は全地区、⑥公共事業募金リストと⑦祭りFêtesの募金リストはシエム・リエブとソートニコムのみで作成されている。それぞれの末尾には、作成者として「代理官」と書かれ、「カンボジア バット・ダムバーン理事官府シエム・リエブ代理部Délégation」という印が押されている。

<sup>131</sup> Bak Prea、クム・プレイ・チャスのなかのプーム [23]。

<sup>132</sup> Prey Chas、スロック・アエク・プノムのなかのクム [23]。

<sup>133</sup> Peam Seina、クム・プレイ・チャスのなかのプーム [23]。

<sup>134</sup> Kaoh Chiveang、スロック・アエク・プノムのなかのクム [23]。

<sup>135</sup> Sotr Nikom、カエト・シエム・リエブのなかのスロック [276]。

<sup>136</sup> カン・シエム・リエブのリストのみ、日付が10月25日となっている。

シエム・リエブの募金状況をまとめた表は以下の通りである。

カン	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
Siemreap	82\$50	70\$00	272\$39	10\$60	432\$00	113\$70	49\$28	1030\$00	
Roluos		115\$00	555\$50		466\$90	4\$10	22\$20	1163\$70	
Puok		12\$00	319\$70		69\$00			400\$70	
Kralanh	5\$00	7\$00	17\$20	7\$20	122\$40			158\$80	
Chongkal		40\$88	128\$45		7\$00			176\$33	
類別合計	87\$50	244\$88	1293\$24	17\$80	1097\$30	117\$80	71\$48	2930\$00	

①ヨーロッパ人官吏、②現地人官吏、③寺院とクムのカンボジア人、④アンナム人、⑤アジア系外国人、⑥公共サービスその他募金者、⑦祭り、⑧カン総計、⑨備考

## (2) 募金者の社会的地位および募金額

### カン・シエム・リエブ

①ヨーロッパ人官吏リストには9人の名前と募金額が記されており、24\$、20\$、10\$、6\$が各1人、残り5人が5\$である。⑥公共サービスその他募金者リストには個人名がなく、募金額順に部局が配列されている。その内訳は森林28\$、公共事業17\$80、運送業者Ouk 16\$10、現地人衛兵13\$80、知事Suon 10\$、代理部8\$、(遺跡?) 保存局7\$、獣医5\$、学校と教師5\$、保健3\$と記されている。なおリスト⑧の地方知事ChaufaisrokはThukという名で、この「知事Suon」とは別人である。

②現地人官吏リストには46人の名前と役職が、募金額順に配列されている。名前からは、全員がカンボジア人であるように見える。村役人が属する村落名は記されていない。最高額が地方知事の5\$で、裁判長(?) Président、バラット・スロック、ヨークバットYokhbath(バラットに次ぐ地位の地方官)が3\$、裁判所書記が2\$、スミエンは2\$が4人、1\$が3人、日雇いヨークバット、元ヨークバット2人、ヴィセスVisès、ペアカデイ・ナロンPhakhdey-Norongが1\$、伝令は1\$が1人、0\$50が1人、メー・クム2人が2\$、元メー・クム2人が1\$、チュムトップ11人が1\$50、チャウ・クロムChaukrom(下級村役人)2人が2\$、クロム・チュムヌムKromchounnoum(下級村役人)10人が1\$である。

⑤アジア系外国人リストには77人の名前と居住地が、募金額順に配列されている。名前からは、ほぼ全員が中国人であるように見える。居住地は3クムに集中している。

Pobanteaichéy	30\$が2人、20\$が2人、15\$が2人、10\$が4人、8\$が2人、5\$が6人、4\$が1人、3\$が16人、2\$が4人
Promtreang	10\$が2人、6\$が5人、5\$が8人(うちChauluonngineは中国人ではないと思われる)、4\$が6人、3\$が8人、2\$が7人
アンコール・トム Angkor-Thom	2\$が2人

④アンナム人リストと⑦祭りリストには、合計募金額のみが記されている。

### カン・ソートニコム

⑧現地人官吏リストには100人の名前と役職が、募金額順に配列されている。名前からは全員がカンボジア人であるように見える。村役人が属する村落名は記されていない。最高額が地区長の10\$, スミエンは4\$が1人、0\$50が2人、伝令が4\$, 警察2人が0\$50、メークムは5\$が1人、4\$が1人、3\$50が4人、3\$が5人、2\$が2人、チュムトップは1\$50が2人、1\$が25人、0\$50が6人、クロム・チュムヌムは1\$が1人、0\$50が36人、0\$30が10人である。

⑨アジア系外国人リストには100人の名前と居住地が、募金額順に配列されている。名前からは全員が中国人であるように見える。5\$の1人、3\$の4人、2\$の3人、1\$の3人、0\$50の1人が女性名で、「寡婦」と記されている。以下は村落別に整理したものである。

ソートニコム Sauthnikom	40\$が4人、15\$が3人、10\$が2人、6\$が2人、5\$が12人、3\$50が1人、3\$が14人、2\$が5人、1\$50が5人、1\$が5人、0\$50が1人
ダム・ダエク <sup>137</sup> Damdèk	4\$が1人
サムラオン <sup>138</sup> Samrong	4\$が2人、3\$が2人、2\$が1人、1\$が1人
コムボン・トコウ <sup>139</sup> Kompong-Tkau	5\$が1人、2\$が4人、1\$10が4人、1\$が18人
コムボン・プルク <sup>140</sup> Kompong-Phloulk	5\$が7人、2\$が3人
Danromleay	3\$が1人
Kompong-Sway	1\$が1人

⑩学校と教師リストと⑪祭りリストには、合計募金額のみが記されている。

### カン・プोक

⑫現地人官吏リストには10人の名前と役職が、募金額順に配列されている。名前からは全員がカンボジア人であるように見える。村役人が属する村落名は記されていない。地区長が2\$, メークムは2\$が1人、1\$が7人、スミエンが1\$である。

⑬住民リストには39人の名前と居住地が、募金額順に配列されている。名前からは全員がカンボジア人であるように見える。以下は村落別に整理したものである。

プोक <sup>141</sup>	3\$80が1人、3\$50が4人、3\$40が1人、3\$30が1人、3\$20が3人、3\$10が1人、3\$が1人、2\$80が2人、2\$70が3人、2\$60が2人、2\$50が6人、2\$40が1人、2\$30が3人、2\$10が1人、2\$が5人、1\$90が1人、1\$50が1人、0\$90が1人
カエウ・ポア <sup>142</sup> Kèopor	2\$80が1人

⑭アジア系外国人リストには40人の名前と居住地が、募金額順に配列されている。名前からは全員が中国人であるように見える。居住地は全てプोकで、6\$が1人、4\$が2人、

<sup>137</sup> Dam Daek、カエト・シエム・リエブ、スロック・ソートニコム Soutr Nikomのなかのクム [277]。

<sup>138</sup> Samraong、スロック・ソートニコムのなかのクム [278]。

<sup>139</sup> Kampong Thkov、カエト・シエム・リエブ、スロック・ブラサート・バーコン Prasat Bakong、クム・ミエン・チェイ Mean Cheyのなかのプーム [274]。

<sup>140</sup> Kampong Phluk、スロック・ブラサート・バーコンのなかのクム [273]。

<sup>141</sup> Puok、カエト・シエム・リエブ、スロック・プोक Puokのなかのクム [271]。

<sup>142</sup> Kaev Poar、スロック・プोकのなかのクム [270]。

3\$が4人、2\$が11人、1\$50が3人（女性1人、寡婦）、1\$が13人、0\$80が1人、0\$70が1人、0\$50が4人である。

### カン・クララン

①ヨーロッパ人官吏リストには1人の名前と5\$という募金額が記されている。

②現地人官吏リストには10人の名前と役職が、募金額順に配列されている。名前からは全員がカンボジア人であるように見える。村役人が属する村落名は記されていない。地区長が1\$、マー・クム3人が1\$、チュムトップ5人が0\$50、スミエンが0\$50である。

③アンナム人リストに個人名はなく、合計募金額のみが記されている。

④アジア系外国人リストには57人の名前と居住地が、募金額順に配列されている。名前からは全員が中国人であるように見える。2\$00の2人、1\$50の1人が女性名である。以下は村落別に整理したものである。

クララン <sup>143</sup> Kralanh	22\$が1人、4\$50が1人、4\$が3人、3\$が3人、2\$50が1人、2\$が5人、1\$が6人、0\$60が1人、0\$50が3人
コムボン・トコウ <sup>144</sup> Komponh-Thkau	8\$が1人、4\$が3人、3\$が5人、1\$60が1人、1\$50が2人、1\$が7人、0\$50が1人、0\$20が2人
トメイ <sup>145</sup> (?)Phum Thméy	1\$が3人、0\$50が7人、0\$30が1人

### カン・チョンカール

①現地人官吏のリストには59人の名前と役職が、募金額順に配列されている。名前からは全員がカンボジア人であるように見える。村役人が属する村落名は記されていない。地区長が10\$、スミエンが3\$、マー・クムは2\$が1人、1\$90が1人、1\$08が1人、1\$が3人、0\$70が1人、0\$65が1人、チュムトップは1\$が1人、0\$60が2人、0\$50が11人、0\$45が1人、0\$40が1人、0\$34が3人、0\$33が2人、0\$32が1人、0\$20が7人、クロム・チュムヌムは0\$50が8人、0\$30が4人、0\$20が6人、0\$10が2人である。

②アジア系外国人リストには4人の名前と居住地が、募金額順に配列されている。居住地は2か所のみで、チョンカール<sup>146</sup>Chongkalで3\$が1人、サムラオンSamrongで1\$50が2人と1\$が1人である。

## (3) 寺院における募金額

### カン・シエム・リエブ

①クムと寺院リストには、18寺院名と所在地が募金額順に配列されている。以下は村落別に整理したものである。

<sup>143</sup> Kralanh、カエト・シエム・リエブ、スロック・クラランKralanhのなかのクム [267]。

<sup>144</sup> Kampong Thkov、スロック・クラランのなかのクム [267]。

<sup>145</sup> Thmei、スロック・クララン、クム・ター・アーンTa Anのなかのプーム [269]。

<sup>146</sup> Chong Kal、カエト・ウッター・ミエン・チェイ、スロック・チョンカールのなかのクム [333]。



Pobanteay-Chey	Preas-Proum-Roth寺院32\$55、Pobanteaychey寺院15\$82、Athvear寺院6\$、Châk寺院5\$50
Proumtreang	Reach-Baur寺院24\$05、ダムナクDamnak <sup>147</sup> 寺院15\$、Enthakosey寺院8\$、スヴァーイSway <sup>148</sup> 寺院7\$20、アランAranh <sup>149</sup> 寺院6\$10、Monysovann寺院5\$、Polangkar Krao寺院4\$47
スランガエ <sup>150</sup> Srangê	スランガエSrangê寺院20\$
サムブオ <sup>151</sup> Sambuor	サムブオSambuor寺院11\$40
アンコール・トム Angkor-Thom	アンコール・ワットAngkor-Wath30\$
ブレア・ダク(?) <sup>152</sup> Pradak	ブレア・ダク(?)Pradak寺院17\$60
カンダエク <sup>153</sup> Kandêk	ルアク <sup>154</sup> Loâk寺院12\$80
クラベイ・リエル <sup>155</sup> Krabey-Real	クラベイ・リエルKrabey-Real寺院33\$90
Prin	Prin寺院17\$

### カン・ソートニコム

©クムと寺院リストには、20人の寺院の長の名前と寺院名が、募金額順に配列されている。寺院の長の名前は全てカンボジア人であるように見える。ロルオス<sup>156</sup>・チャスRoluos Chas寺院69\$60、コムボン・プルク寺院34\$50、トラチ<sup>157</sup>Trach寺院35\$20、サンラオン<sup>158</sup>(?)Sanlong寺院35\$、バーコン<sup>159</sup>Bakong寺院30\$、Rokar寺院29\$50、トレイ・ニョア<sup>160</sup>Trey-Nhor寺院28\$、バンティエイ・ルセイ<sup>161</sup>Banteai-Roséy寺院26\$、Trabek寺院26\$、Lomprâlung寺院25\$60、Sala寺院25\$50、ロレイ<sup>162</sup>Loléy寺院25\$、Monthyeay寺院24\$20、サムラオンSamrong<sup>163</sup>寺院24\$10、Sophi寺院23\$、Pong-Ro寺院21\$、バンティエイ・スレイ<sup>164</sup>Banteay-Sréy寺院19\$、ルン・ター・アエク<sup>165</sup>Roun-Taêk寺院18\$20、ブレア・

<sup>147</sup> Voat Damnak、カエト・シエム・リエブ、スロック・シエム・リエブSiem Reab(U)、クム・サーラー・カムルークSala Kamraeukのなかのブーム [275]。

<sup>148</sup> Voat Svay、クム・サーラー・カムルークのなかのブーム [275]。

<sup>149</sup> Aranh、スロック・シエム・リエブ、クム・シエム・リエブSiem Reabのなかのブーム [276]。

<sup>150</sup> Srangae、スロック・シエム・リエブのなかのクム [276]。

<sup>151</sup> Sambuor、スロック・シエム・リエブのなかのクム [276]。

<sup>152</sup> Preah Dak、カエト・シエム・リエブ、スロック・バンティエイ・スレイのなかのクム [263]。

<sup>153</sup> Kandaek、スロック・ブラサート・バーコンのなかのクム [273]。

<sup>154</sup> L'ak、クム・カンダエクのなかのブーム [274]。

<sup>155</sup> Krabei Riel、スロック・プオクのなかのクム [270]。

<sup>156</sup> Roluos、スロック・ブラサート・バーコンのなかのクム [274]。

<sup>157</sup> Trach、クム・パーランBallangkのなかのブーム [273]。

<sup>158</sup> Sanlaong、スロック・ソートニコム、クム・チャン・サー Chan Sarのなかのブーム [276]。

<sup>159</sup> Bakong、スロック・ブラサート・バーコンのなかのクム [273]。

<sup>160</sup> Trei Nhor、スロック・プオクのなかのクム [272]。

<sup>161</sup> Banteay Ruessei、クム・ミエン・チェイのなかのブーム [274]。

<sup>162</sup> Loley、クム・バーコンのなかのブーム [273]。

<sup>163</sup> Samraong、スロック・ソートニコムのなかのクム [278]。

<sup>164</sup> Banteay Srey、カエト・シエム・リエブのなかのスロック [262]、あるいはスロック・ソートニコム、クム・ダム・ダエクのなかのブーム [277]。

<sup>165</sup> Run Ta Aek、スロック・バンティエイ・スレイのなかのクム [263]。

トラペアン<sup>166</sup>Preastrâpeang寺院18\$, Koky寺院17\$20である。

### カン・プオク

◎寺院リストには13寺院名が募金額順に配列されている。Thlang寺院48\$, プレイ・ダンハウム<sup>167</sup>Préy Dang Huoem寺院26\$10、ロヴィエ<sup>168</sup>Lovea寺院20\$50、トラキエト<sup>169</sup>Trâ Kiet寺院20\$, プオクPuok寺院20\$, Kok Kpos寺院16\$20、ティパカデイ<sup>170</sup>(?)Thippdéy寺院15\$90、アムピル<sup>171</sup>Ampil寺院15\$, クナート<sup>172</sup>Khnat寺院11\$40、プレア・アン・トロン<sup>173</sup>Preas Ang Trong寺院8\$, プラサート<sup>174</sup>Prâsath寺院8\$, ルール<sup>175</sup>RuoeI寺院5\$, Trâ Tok寺院3\$である。

### カン・クララン

◎寺院リストには2寺院名が募金額順に配列されている。所在地はいずれもクラランである。サムプウ・ルン<sup>176</sup>Sampouloun寺院14\$, Pothy寺院3\$20である。

### カン・チョンカール

◎寺院リストには4寺院名が、募金額順に配列されている。サムラオン<sup>177</sup>Samrong寺院69\$50、コーク・クポス<sup>178</sup>Kok Kpos寺院21\$50、チョンカール寺院19\$45、Khbal Sâr寺院18\$である。

## 8. パイリン

### (1) 募金者リストの概要

パイリン<sup>179</sup>の①10月15日付パイリン分遣隊現地人衛兵の募金者リストには、23人の個人番号と名前が階級順、同階級内では個人番号順に配列され、募金額が記されている(10\$40)。末尾左にはポストの長が確認した旨とサイン、右に軍曹のサインが付され、前者の上に「バット・ダムバーン理事官府パイリン行政ポスト代理官」という印が

<sup>166</sup> Preah Trapeang、クム・ダム・ダエクのなかのブーム [277]。

<sup>167</sup> Prey Danghaeum、クム・カエウ・ボアのなかのブーム [270]。

<sup>168</sup> Lvea、スロック・プオクのなかのクム [270]。

<sup>169</sup> Trakiet、スロック・プオク、クム・モック・バエンMukh Paenのなかのブーム [271]。

<sup>170</sup> Thipakdei、スロック・プオク、クム・トレイ・ニョアのなかのブーム [272]。

<sup>171</sup> Ampil、スロック・プオク、クム・サムラオン・イエSamraong Yeaのなかのブーム [272]。

<sup>172</sup> Khnat、スロック・プオクのなかのクム [270]。

<sup>173</sup> Preah Ang Trong、クム・ロヴィエのなかのブーム [271]。

<sup>174</sup> Prasat、スロック・プオク、クム・プレイ・チュルークPrey Chrukのなかのブーム [271]。

<sup>175</sup> Reul、スロック・プオクのなかのクム [271]。

<sup>176</sup> Sampov Lun、クム・クラランのなかのブーム [267]。

<sup>177</sup> Samraong(U)、カエト・ウッダー・ミエン・チェイOtdar Mean Cheyのなかのスロック [334]。

<sup>178</sup> Kouk Khpos、カエト・ウッダー・ミエン・チェイ、スロック・バンティエイ・アムビルBanteay Ampilのなかのクム [332]。

<sup>179</sup> サファア、ルビーの宝石鉱山地区として知られる。パイリンの興隆史は北川 [2003] を参照のこと。

押されている。㉑10月24日付鉾山地区カン・クム役人募金者リストは121人分（64\$80）、㉒10月24日付鉾山地区ビルマ人/コラー<sup>180</sup>リストは4人分（1\$90）、㉓10月24日付鉾山地区中国人募金者リストは34人分（19\$70）、㉔10月24日付の鉾山地区寺院募金リストは15寺院の名前と所在地が記されている（123\$50）。㉑㉒㉓㉔はカンボジア語にフランス語訳が添えられ、末尾に地区長のサインと官印、ポストの長が確認した旨とサインおよび印が付されている。㉕10月31日付の官吏募金者リストは16人の名前と職位が記され、右端にはサイン欄があり、ローマ字、カンボジア文字、漢字のサインが記されている。㉖10月31日付の中国人募金者リストは38人分（86\$30）が記され、右端にはサイン欄があり、ローマ字でサインをしている2人を除き、漢字で名前が記されている。印象ではあるが、漢字の字体は非常に整っていて、1人の手によるものではないかと思われる。㉗10月31日付ビルマ人募金者リストには26の個人および集団が記載されており（135\$60）、サインはない。㉘㉙㉚はサインと末尾以外が同じ筆跡のローマ字手書きで、末尾に行政ポスト長のサインおよび㉑と同じ印が押されている。

1923年10月31日付パイリン代理部からの明細No.397には、「ヨーロッパ人・現地人官吏と代理部の下級人員」が45\$、「現地人衛兵分遣隊」が10\$40、「パイリンの中国人」が86\$30、「パイリンのビルマ人」が135\$60、「サーラー・カンSalakhand（地区役場）、クムの募金」が64\$80、「サーラー・カン、寺院の募金」が123\$50、「サーラー・カン、奥地の中国人の募金」が19\$70、「サーラー・カン、奥地のビルマ人の募金」が1\$90、計487\$20と記されている。すなわち㉑㉒㉓㉔の「鉾山地区」が明細の「サーラー・カン、奥地」に相当する。

## (2) 募金者の社会的地位および募金額

㉕官吏募金者リストは、名前を見ると、ヨーロッパ人かと思われる者と、カンボジア人、ビルマ人、ベトナム人、中国人が入り混じっているようである。ポストの長である2級正規衛兵Thomasが25\$、地区長が4\$、2級スミエンが3\$、3級スミエンとシャム人文官・ビルマ人建設業者（ビルマ人）、契約書記通訳（アンナム人）、ポストの大工（カンボジア人）が2\$、5級看護師、5級伝令が1\$、ポストの車大工（カンボジア人）、道路工夫（カンボジア人）2人、道路工夫（アンナム人）、庭師（中国人）が0\$50、もう1人の道路工夫（カンボジア人）が0\$30、クーリー（カンボジア人）が0\$20である。

㉖パイリン分遣隊現地人衛兵は、概ね階級が上の方であるほど募金額が多く、最上位の2級軍曹が1\$50、次の1級伍長が1\$、7人いる1級衛兵では1\$が1人、0\$50が3人、0\$30が1人、0\$40が1人、0\$20が1人、14人いる2級衛兵では0\$50が3人、0\$40が5人、0\$30が2人、0\$20が1人、0\$10が2人、金額無記入が1人である。

<sup>180</sup> パイリンで宝石採掘に携わった「ビルマ人」に関しては、北川 [2003] を参照のこと。

村役人、中国人、ビルマ人のリスト③④⑤⑥⑦を村落ごとに整理すると、以下のようになる。

パイリン	中国人は5\$が5人、3\$が8人、2\$50が2人、2\$が11人、1\$30が1人、1\$が8人、0\$50が1人、0\$40が1人、0\$10が1人
ボー・ディンニエウ <sup>181</sup> Bordineo	地区長が4\$、スミエンは3\$が1人、2\$がもう1人、プラントン（伝令）が1\$、メー・クムが2\$、チュムトップ2人が1\$、クロムは1\$が1人、0\$50が1人、名前だけの4人が1\$、ビルマ人は10\$が1人、5\$が2人、2\$が2人、1\$が13人、1\$以下の募金をした者の分をまとめて19\$10
パヒ <sup>182</sup> Pahi	ビルマ人は2\$が1人、1\$が7人、1\$以下の募金をした者の分をまとめて14\$10
Khang Tapouk	ビルマ人は1\$が1人、1\$以下の募金をした者の分をまとめて4\$45
ボー・ヤーカー <sup>183</sup> Boya Kha	ビルマ人は5\$が1人（Mang Soy <sup>184</sup> ）、0\$80が1人、0\$50が1人、その他1\$以下の募金をした者の分をまとめて2\$50
Kang Noupay	ビルマ人住民が9\$
ボー・タンズー <sup>185</sup> Botangsou	ビルマ人2人が1\$、1\$以下の募金をした者の分をまとめて5\$20
ボー・ファイ・クマエ <sup>186</sup> Bohoykhmen	1\$以下の募金をした者の分をまとめて2\$25
ティエ・アムビルThea Ampil	メー・クムが1\$、チュムトップは1\$が1人、0\$50が3人、クロム2人が0\$50
チー・サンChisang	メー・クムが1\$、チュムトップは0\$50が3人、クロムは0\$50が3人、中国人は1\$が1人
サムロトSamlot	メー・クムが1\$50、チュムトップは0\$20が4人、クロムは0\$20が1人、0\$10が2人
ター・クレイTa Krey	メー・クムが0\$50、チュムトップは0\$50が2人、0\$30が1人、クロムは0\$50が3人、スミエンは0\$50が2人、0\$30が1人、中国人は0\$50が2人
パーンローラムPangrolum	メー・クムが0\$50、チュムトップ3人が0\$50、クロム2人が0\$50
スンSung	メー・クムが1\$、チュムトップ4人が0\$50、クロムは1\$が1人、0\$50が2人
プノム・ダムレイ Phnom Damrey	メー・クムが0\$50、チュムトップ4人が0\$50、クロム3人が0\$50
スラー・克蘭Sla Khlang	メー・クムが1\$、中国人は1\$が1人、0\$50が2人、0\$30が1人
ボー・ヴェールBovel	メー・クムが1\$、チュムトップ2人が0\$20、クロム2人が0\$10、中国人は1\$が1人、0\$50が5人、0\$30が2人、0\$20が1人
サンカエ・ヴィエSangkêvéa	メー・クムが1\$、チュムトップは0\$50が1人、0\$20が1人、中国人は1\$が5人、0\$50が2人
クドルKdol	チュムトップ4人が0\$20、クロム1人が0\$20、中国人は1\$が1人

<sup>181</sup> Badin Niev、サンカット・パイリンSangkat Pailinのなかのブーム [336]。

<sup>182</sup> Pahi、サンカット・パイリンのなかのブーム [336]。

<sup>183</sup> Ba Yakha、パイリンPailinのなかのクム [336]。

<sup>184</sup> 20世紀初頭のパイリンで権力をふるっていた「ビルマ人の長」[北川2003:158-161]。

<sup>185</sup> Bar Tangsu、クム・ボー・ヤーカーのなかのブーム [336]。

<sup>186</sup> Ba Huy Khmer Khang C、Ba Huy Khmer Khang Tb、クム・ボー・ヤーカーのなかのブーム [336]。

チラー Chra	メー・クムが0\$50、チュムトップ4人が0\$50、クロム3人が0\$50、名前だけの4人が0\$50
スラエ・チーポー Srê Chipou	メー・クムが1\$, チュムトップ3人が1\$, クロム2人が1\$
コムリエン Komrieng	メー・クムが0\$50、チュムトップ3人が0\$50、クロム3人が0\$50、名前だけの1人が0\$50、中国人は0\$50が3人、0\$10が1人
アムピル・プラム・ダウム Ampil Pramdeum	メー・クムが1\$, チュムトップが1\$, クロムは0\$60が1人、0\$20が2人、中国人は0\$40が1人、0\$30が1人、ビルマ人は1\$が1人、0\$50が1人、0\$30が1人
ター・コト Ta Kot	メー・クムが1\$, チュムトップは0\$40が2人、0\$30が2人、クロムは0\$30が1人、0\$20が2人、0\$10が1人、中国人は0\$60が1人、0\$50が2人、0\$20が1人、ビルマ人は0\$10が1人

### (3) 寺院における募金額

⑨のリストを村落ごとに整理すると以下のようになる。

ボー・ディンニエウ Bodinéo	ワット・クラン・クラーン Wat Klang Klang 20\$
ボー・ヤーカー	ボー・ヤーカーの寺院 23\$70
チー・サン	ワット・チー・サーン Chisang 11\$
サムロト	ワット・サムロト Samloto 1\$20
パーンロールム Pangrolum	ワット・パーンロールム Pangrolim 6\$30
スン	ワット・スン Sung 7\$00
スラー・クラン	ワット・ブレイ・クロス Prey Kros 6\$
ボー・ヴェール	ワット・ボー・ヴェール Bovel 15\$
サンカエ・ヴィエ	ワット・サンカエ・ヴィエ Sangkê Vêa 5\$
クドル	ワット・クドル Kdol 5\$20
チラー	ワット・チラー Chra 20\$80
アムピル・プラム・ダウム	ワット・アムピル・プラム・ダウム Ampil Pramdaum 6\$
ター・コト Ta Kot	ワット・ター・コト Ta Kot 5\$10
ロテン Roteng	ワット・ロテン Roteng 1\$
クラニューン Kranhung	ワット・ター・サーン Tasanh 3\$60
スラエ・アンテアク Srê Antek	ワット・プノム・コイ Phnom Koy 10\$30

## 9. バット・ダムバーン理事官区の募金総額

1923年10月31日付バット・ダムバーン理事官から理事長官宛公式電報601番（フランス語タイプ打ち）には、募金が締め切られた旨が記され、次のように募金額が報告されている：ヨーロッパ人官吏および入植者218p（ピアストル）50、保護国およびカンボジア行政府の現地人官吏323p58、アジア系外国人2,070p98、カンボジア人および同化者 assimilés 3,852p86、計6,465p92。

バット・ダムバーン知事のサインと官印付で、10月9日9時時点での「寺院以外」の募金額を記した書類（フランス語手書き）には、以下のように記されている：バット・ダ

ムバーン319\$30、モーン80\$、モンコル・ボレイ100\$、パイリン30\$、シエム・リエブ522\$、クララン20\$、計1,071\$30。そのほかにタイプ打ちに手書きで修正が加えられたリスト（日付なし）があり、シエム・リエブ2,925\$、パイリン462\$10、シソポン憲兵隊68\$40、バット・ダムバーンの町のヨーロッパ人105\$、アジア系外国人442\$、現地人書記官45\$、バット・ダムバーン知事1,584\$62、計5,632\$12と記されている。さらに合計額の下に「6,465\$92」、紙片最下部に「+280\$がアジア系外国人によって支払われた」と手書きで記されている。手書きの合計額が10月31日付公式電報601番と一致することから、最終的な数字をまとめたものであると思われるが、タイプ打ちの金額がどのリストに基づくのか、さらにタイプ打ちと手書きの金額の差異はどうして生じたのかといった情報は無い。

### まとめ

募金者リストは、地域の住民を、①ヨーロッパ人、②フランス植民地行政府の現地人官吏、③カンボジア王国行政府の現地人官人、④アジア系外国人、⑤カンボジア人の5群にグループ分けして作成されている。ただし、地区によってリストに記載する項目に揺らぎがあり、バット・ダムバーン理事官府管轄区域全体を一括して分析することは難しくなっている。

①バット・ダムバーン理事官府管轄下のヨーロッパ人は30人強と、地域の住民としてはごく少数派で、バット・ダムバーンとシエム・リエブの町に集中し、官吏が主で、一般の入植者は少数であった。②フランス植民地行政府の現地人官吏には、ベトナム人とカンボジア人が混在していた。宝石鉱山関係者のビルマ人が主要な住民をなしているパイリンの行政ポストには、ベトナム人とカンボジア人のほかに、ビルマ人や中国人が勤務していた。

③カンボジア王国行政府の現地人官人は、オクニャーなど前植民地期からの伝統的な称号を与えられており、バット・ダムバーン知事に送付された文書はカンボジア語で作成されているので、少なくとも長や裁判官、スミエンはカンボジア語の読み書き能力が必須であったと思われる。確実にこのグループに含まれているのは地方役場と地区役場の勤務者で、メー・クム以下の村役人が含まれるかどうかは、リストによって揺らぎがあるように見える。

④アジア系外国人の項目は、リストによっては中国人や商人となっている。大部分が中国人商人であったが、バット・ダムバーンの町と、おそらくシエム・リエブの町では、インド系の商人もアジア系外国人に含まれていた。「寡婦」と記された女性の募金者がいることも、このグループの特徴である。パイリンのビルマ人に関しては、最終的な募金額を報告した1923年10月31日公式電報601番で、アジア系外国人に分類されたか否かは分からない。またモンコル・ボレイのリストにはラオ人やチャム人と記された村役

人がいるが、彼らはアジア系外国人のカテゴリーには入れられていない。

⑤カンボジア人は、リストによっては農民となっている。またカン・プオク以外のシエム・リエブとパイリンのリストには、カンボジア人あるいは農民という項目自体が立てられていない。村役人にラオ人やチャム人がいることから、村落に居住し、何らかの役職には就かず、農業その他の生業についていたラオ人、チャム人、そして中国人もいたはずであると想定されるが、彼らの姿はリストには現れないか、あるいはカンボジア人と区別されていないようである。また理事官府勤務以外のベトナム人が「アンナム人たち」としてリストに現れることもあるが、その場合は個人としては記されず、集団としてのみ記されている。

個人として高額の募金をしているのは、バット・ダムバーンとシエム・リエブのアジア系外国人で、最高額は40\$である。パイリンのビルマ人が1人、10\$を募金している。それ以外の地域では、アジア系外国人/中国人/商人の募金額は5\$を越えない。

ヨーロッパ人（と思われる人物）の募金額の最高額は、パイリン・ポストの長Thomasの25\$で、次がシエム・リエブの24\$と20\$、そしてバット・ダムバーン理事官の20\$である。カンボジア王国の地方官人では、バット・ダムバーン知事ともう1人のオクニャー、そして農民と分類されているが、ヴァット・サンカエに住むLuong Norin Molが、それぞれ20\$募金している。すなわち募金額を見る限り、フランス側の行政府の長である理事官と、カンボジア側の地方知事とは同等である。以下、植民地行政府官吏とカンボジア王国官人は双方とも、高位者ほど募金額が高い傾向にあり、ヨーロッパ人の募金額と現地人官吏/官人の上中級者、カン・バット・ダムバーン内の一部メークムたちの募金額がほぼ同等である。

集団としての募金額が最も大きかったのは、最も人数が多いカンボジア人/農民のグループである。寺院で募金をした者の多くも、このグループであったと思われる。寺院での募金額には少数点以下2けたの端数が見られるので、1人1人の募金額は極めて少額かつ金額にもばらつきがあったのではないかと想定される。

1人の募金額として最も募金者数が多いのが1\$で、0.5\$がこれに次ぐ。個人として名簿に名前が記載されるような募金では、募金者の社会的地位や経済力によって、1\$か0.5\$という切りのよい額が相場となっていたのではなかろうか。

文書ファイルRSC9632の募金活動はいわば官製で、インドシナ総督－カンボジア理事長官－理事官－代理官<sup>187</sup>・地方知事という、行政系統の回路を通じて呼びかけ・集金がなされ、この回路を逆にたどってリストと募金を送られた。バット・ダムバーンの現地人に関してはバット・ダムバーン知事自身を取りまとめ、モンコル・ボレイとモーン・ルセイ、シソポン、トゥック・チョー、バック・プリエに関しては、知事から指示を受

<sup>187</sup> 遠方に位置するシエム・リエブ、パイリンの代理部とバット・ダムバーン理事官府のあいだでは、電気で頻繁に連絡が交わされている。

けた地区長などが取りまとめて知事に送り、それらを知事が取りまとめて理事官に送付した。その過程で何度もリストが作成され、またシソボン憲兵隊の例のように、行政の回路とは別に集められた募金もあったため、1923年10月31日付公式電報601番に整理された最終的な合計額と各リストの関係は不明瞭になってしまっている。

さらに募金者リストは理事長官に送られ、各地の理事官府などで公開されることとなっていた。したがって植民地行政府の官吏、カンボジア王国の地方官人および村役人にとってこの募金は、役職に就き、俸給を得ている者としての義務に等しいものであったと思われる。商人たちや、農民のなかでもニエイの称号がつくような立場の者にとっても、やはり義務に近いものであったのではなからうか。筆者が先論で確認できた限りでは、最上級の地方知事の年俸が1917年時点で2,100\$ [北川2018:31]、理事官府勤務の1級書記官が1921～1923年に年俸918\$を受け取っている [北川2016:53]。また傘谷の研究によると、1922年職員令に定められた司法職員の給与は、裁判長で3,000～900\$、裁判官で780～600\$、裁判官補で510\$、裁判所書記で810～510\$、裁判所書記補で480～300\$、同研修生で270\$であった。さらに1930年時点の裁判所書記・書記補らの年間支出額は、おそらく家族単位で約1,100\$、1か月の生活費は73.50\$であり、中下級以下の職員は家族を養うに足る待遇を与えられていなかったという [傘谷2017:179-181]。1\$や0.5\$の募金をしているのは、まさにこの中下級以下の職員であるが、彼らにとってはそこそこの厳しい臨時支出だったかもしれない。

またバット・ダムバーンやシエム・リエプの町に店を構える中国人やインド人の商人たちは、その経済力に応じて、とくに高額な募金をすることが社会的にも期待されたであろう。筆者が現在のバット・ダムバーン市街地内に立地するポー・ヴィエルPovéal寺院の寺史を分析した先論では、富裕な商人であることを意味するダンカウDangkhouという称号を名前に冠した男性たちや、その身内である女性たちが、度々ポー・ヴィエル寺に高額の寄進をしている様子が明らかになった。1923年前後の事例だけを取り上げてみても、1920～21年に女性信徒1人がサーラー Sala（講堂）の再建に1,200\$、経蔵建設の募金に応じて400\$（他の募金者と合わせて2,200\$）、1924年にダンカウ1人と女性1人が共同で本堂再建に1,100\$、1925年に男女2人が父母の遺骨を納める仏塔建設に350\$、1925年に男性2人が寺院に付設された博物館の棚に80\$、1926年に男女2人が寺院に付設された学校の椅子（金額なし）を寄付、男女6人他が經典の購入費として450\$、120\$、70\$、40\$、30\$、20\$ずつを寄付している [北川2013:14-19]。寺院への寄進は前々からそのつもりで準備してきたものと思われるので、予期せぬ災害支援のための募金とは支出可能な余裕が異なるであろうが、寺院への寄進額の規模を見る限り、10\$単位の臨時支出に対応することは、彼らにとってはそれほど困難ではなかったのかもしれない。

リストに名前と募金額が記されている農民あるいはカンボジア人のほかに、寺院で少額の募金をし、リストには個別の名前が記載されなかった人々がいた。寺院での募金に



は、積徳という宗教的な意味があったと思われる。そしてそこには多くの死者を出したという災害の被災者への同情や、回向の気持ちも含まれていたのではないだろうか。いずれにせよこの公開募金は、当時のカンボジアの村落住民の身近で「日本」という国の名前が話題となり、そこで発生したという大規模災害の悲惨さを想像し、被災者に同情を寄せる機会となったと考えられる。

[付記] 本研究は『出土陶磁器と交易関連文書に基づく前近代日本＝カンボジア間交易・交流史の復元研究』[文部科学省科研費21H00601]（研究代表者 田畑幸嗣）による。

#### 参考文献

- National Institute of Statistics, Ministry of Planning. 1999. *General Population Census of Cambodia 1998 Village Gazetteer*. Phnom Penh.
- RSC9632 1923 *Souscription ouverte en faveur des victimes de la catastrophe du Japon: correspondance de la Résidence de Battambang*. ANC所蔵文書
- ព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា ផែនការស្រុក។ 2000.
- 井上忠男 2023 「歴史ドキュメント:関東大震災100年 世界はそれをいかに知り、救援に乗り出したか－関東大震災と情報通信－」『人道研究ジャーナル』12. pp.267-281
- NHK取材班 編 2001 「関東大震災・知られざる日米友好」『その時歴史が動いた5』KTC中央出版
- 王鑫 2018 「中国における関東大震災の報道をめぐって」『災害復興研究』9. pp.137-145
- 大澤浄 2013 「関東大震災記録映画群の同定と分類－NFC所蔵フィルムを中心として」『東京国立近代美術館研究紀要』17. pp.48-62
- 岡本多喜子 2016 「関東大震災の義捐金処分と浴風会の創設」『明治学院大学社会学・社会福祉学研究』146. pp.23-65
- 傘谷祐之 2017 「フランス植民地期カンボジアにおける司法官任用制度」『名古屋大学法政論集』272. pp.165-184.
- 傘谷祐之 2018 「フランス植民地期カンボジアにおける歴代司法大臣の経歴（3・完）」*Nagoya University Asian Law Bulletin* 4. pp.29-42.
- 加納靖之 他 2021 『歴史のなかの地震・噴火 過去がしめす未来』東京大学出版会
- 川島真 1999 「関東大震災と中国外交－北京政府外交部の対応を中心に－」『現代中国研究』4. pp.27-44
- 関東大震災80周年記念行事実行委員会 編 2004 『世界史としての関東大震災 アジア・国家・民衆』日本経済評論社
- 義捐係 1924 『義捐金収支状況調 大正十三年十二月末日現在』国立公文書館
- 北川香子 2003 「宝石のくにの出現－バイリン興隆史」『地域研究論集』5(1). pp.141-163
- 北川香子 2013 「ポー・ヴィル寺の選択－寺院史から見た「返還」前後のバット・ダムバーン」『南方文化』40. pp.1-23
- 北川香子 2016 「カンボジア人書記通訳官リー・サム」『南方文化』42. pp.49-77
- 北川香子 2018 「フランス植民地支配下のカンボジア人地方知事イア・カウ」『順天堂グローバル教養論集』3. pp.17-32
- 北原糸子 編 2006 『日本災害史』吉川弘文館
- 北原糸子 2011 「関東大震災の義捐金について」『非文字資料研究』7. pp.121-143
- 北原糸子 2021 『震災と死者 東日本大震災・関東大震災・濃尾地震』筑摩書房
- 齋藤達志 2012 「関東大震災における米国の支援活動の役割と影響」『軍事史学』48(1). pp.46-66
- 土田宏成 2016 「20世紀初頭、太平洋をはさんだ2つの災害－1905～06年、東北地方大凶作とサンフランシスコ地震にみる国際関係」『神田外語大学日本研究所紀要』8. pp.111-117

- 土田宏成 2023a 「近代日本の「災害外交」の展開－20世紀初頭を中心に」『首都圏史叢書⑧ 関東大洪水忘れられた1910年の大災害』日本経済評論社
- 土田宏成 2023b 中公新書『災害の日本近代史 大凶作、風水害、噴火、関東大震災と国際関係』中央公論新社
- 西村直登 2017 「関東大震災下における朝鮮人の帰還」『社会科学』47. pp.33-61
- 西村直登 2019 「関東大震災に対する朝鮮社会の反応」『 코리아研究』10. pp.39-56
- 波多野勝・飯森明子 1999 『関東大震災と日米外交』草思社
- 渡邊公太 2016 「三大震災時の受援をめぐる比較考察－「災害外交」の視点から－」『検証・防災と復興① 大震災復興過程の政策比較分析－関東、阪神・淡路、東日本三大震災の検証－』ミネルヴァ書房

(本学教授)